

# 安全安心の街づくりに 向けたアンケート

## 防災意識アンケート調査報告書

2015年2月

コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会

# 目 次

I	調査の概要	1
II	回答者のプロフィール	3
III	調査結果の分析	5
	1. 現在の防災対策や避難について	5
	(1) 防災対策	5
	①家や店舗	5
	②地域・商店街	7
	(2) 防災について身近な人と話す頻度	8
	(3) 必要な災害の備え	9
	(4) 知りたい内容	10
	(5) 地震の発生直後に心がけたいこと	11
	(6) 地震・津波が起きる危険性について	12
	(7) 避難する場所	13
	(8) 避難中の問題点	14
	(9) 来街者が避難しやすいまちか	16
	(10) 来街者が安全に避難するために必要な取り組み	17
	(11) 津波避難で特に重視するもの	19
	2. 今後の防犯対策について	21
	(1) 避難を判断するきっかけや状況	21
	(2) 総合防災訓練で取り組むべき事	23
	(3) 街なか防災ハンドブックに取り入れるべき情報	25
	(4) 避難誘導サインに必要だと思う情報	27
	(5) 地域の困りごと・悩み事	29
	3. 自由意見	31
	(1) 語り継ぎたい震災の教訓	31
	(2) 日頃の備え	34
	(3) 安全安心な街づくりについて	37
IV	資 料	40
	1. 使用した調査票（見本）	40

## 1. 調査の目的

今後の安全・安心の街づくりを進めるにあたり、地域住民の防災意識や今後の防災対策についてまとめ、また、地域住民だけでなく来街者にもわかりやすい防災・減災の取り組みを進めるための基礎資料とするために、アンケートを実施した。

## 2. 調査項目

- (1) 回答者の属性について
- (2) 防災対策や避難について
  - ①防災対策
  - ②防災について身近な人と話す頻度
  - ③必要な災害の備え
  - ④知りたい内容
  - ⑤地震・津波が起きる危険性について
  - ⑥避難する場所
  - ⑦避難中の問題点
  - ⑧来街者が避難しやすいまちか
  - ⑨来街者が安全に避難するために必要な取り組み
  - ⑩津波避難で特に重視するもの
- (3) 今後の防災対策について
  - ①避難開始のきっかけや状況
  - ②総合防災訓練で取り組むべき事
  - ③街なか防災ハンドブックに取り入れるべき情報
  - ④避難誘導サインに必要だと思う情報
  - ⑤地域の困りごと・悩み事

## 3. 調査方法

地域組織（町内会）を通じて各世帯に配布した。調査は世帯を構成する個人を対象とし、世帯毎の家族人数が不明のため各世帯に3票の調査票を同封した。記入済み調査票の回収も、地域組織（町内会）を通じて行った。

配布日：平成27年2月4日（水）

回収完了日：平成27年2月16日（月）

## 4. 回収結果

回収結果は以下の通り。

地区	配布数	回収世帯数	回収率	無効票数 (個人)	有効回収票数 (個人)
中央	110 世帯	52 世帯	47.3%	3 票	93 票
立町	55 世帯	18 世帯	32.7%	1 票	32 票
計	165 世帯	70 世帯	42.4%	4 票	125 票

※無効票は白票及び同一人物による重複回答によるもの

## 5. 調査企画・実施主体

コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会  
東北大学災害科学国際研究所 助教 佐藤 翔輔

## 6. 集計・分析

株式会社サーベイリサーチセンター

## 7. 報告書の見方

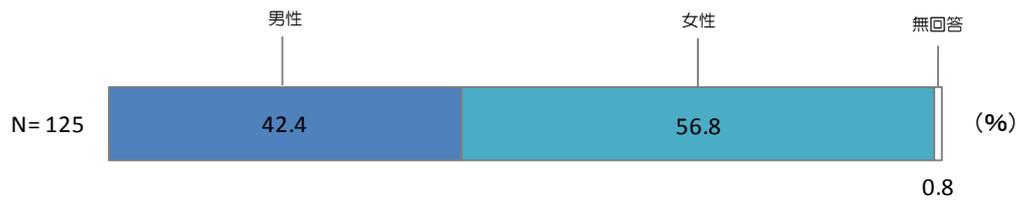
- (1) N (number of cases) は比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。したがって、単一選択式の質問においては、回答比率を合計しても 100.0%にならない場合がある。また、回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の比率を合計すると 100.0%を超える。
- (3) 図表及び本文で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。

## Ⅱ

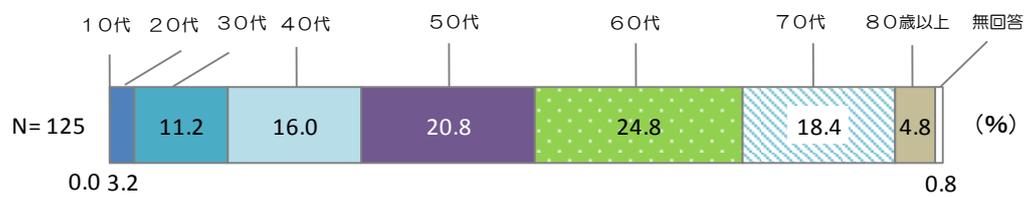
## 回答者のプロフィール

本調査における、回答者の属性は以下のとおりである。

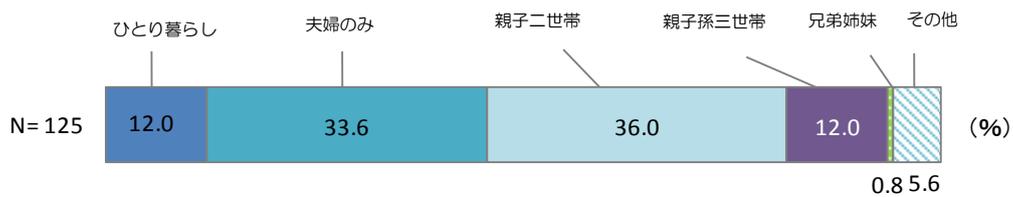
### 1. 性別



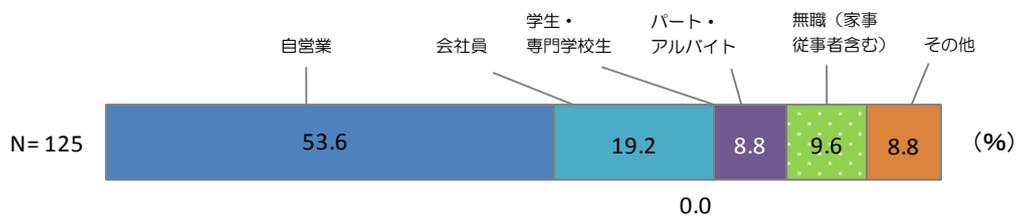
### 2. 年齢層



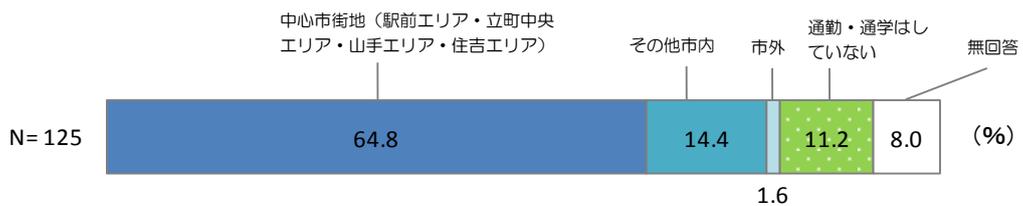
### 3. 家族構成(同居人含む)



## 4. 職業



## 5. 通勤・通学先



## 1. 現在の防災対策や避難について

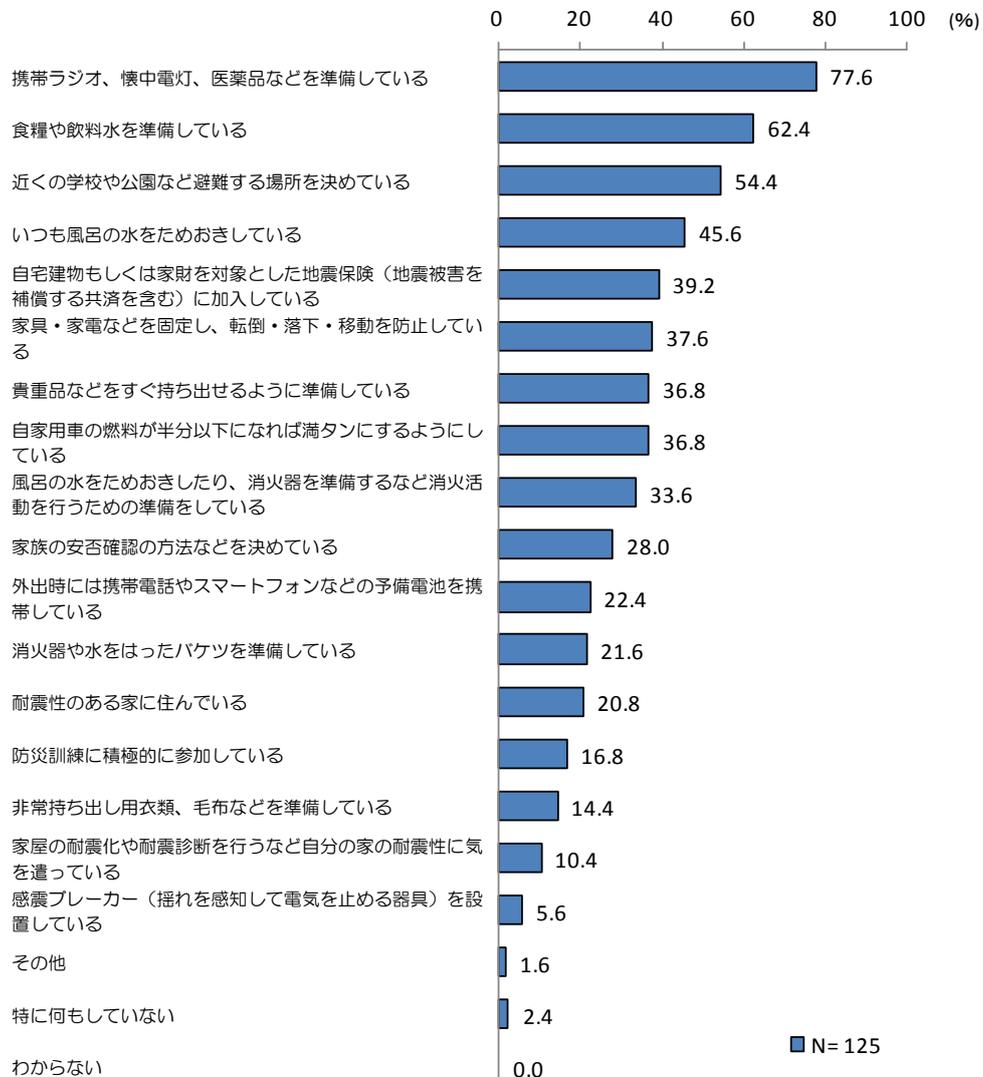
## (1) 防災対策

## ① 家や店舗

家や店舗の防災対策はラジオ・懐中電灯などの準備がトップ  
過半数が食糧や飲料水の備蓄や避難先の選定などを実施

問 6 この1年間程度の間で、家や店舗の防災対策として何を行いましたか。

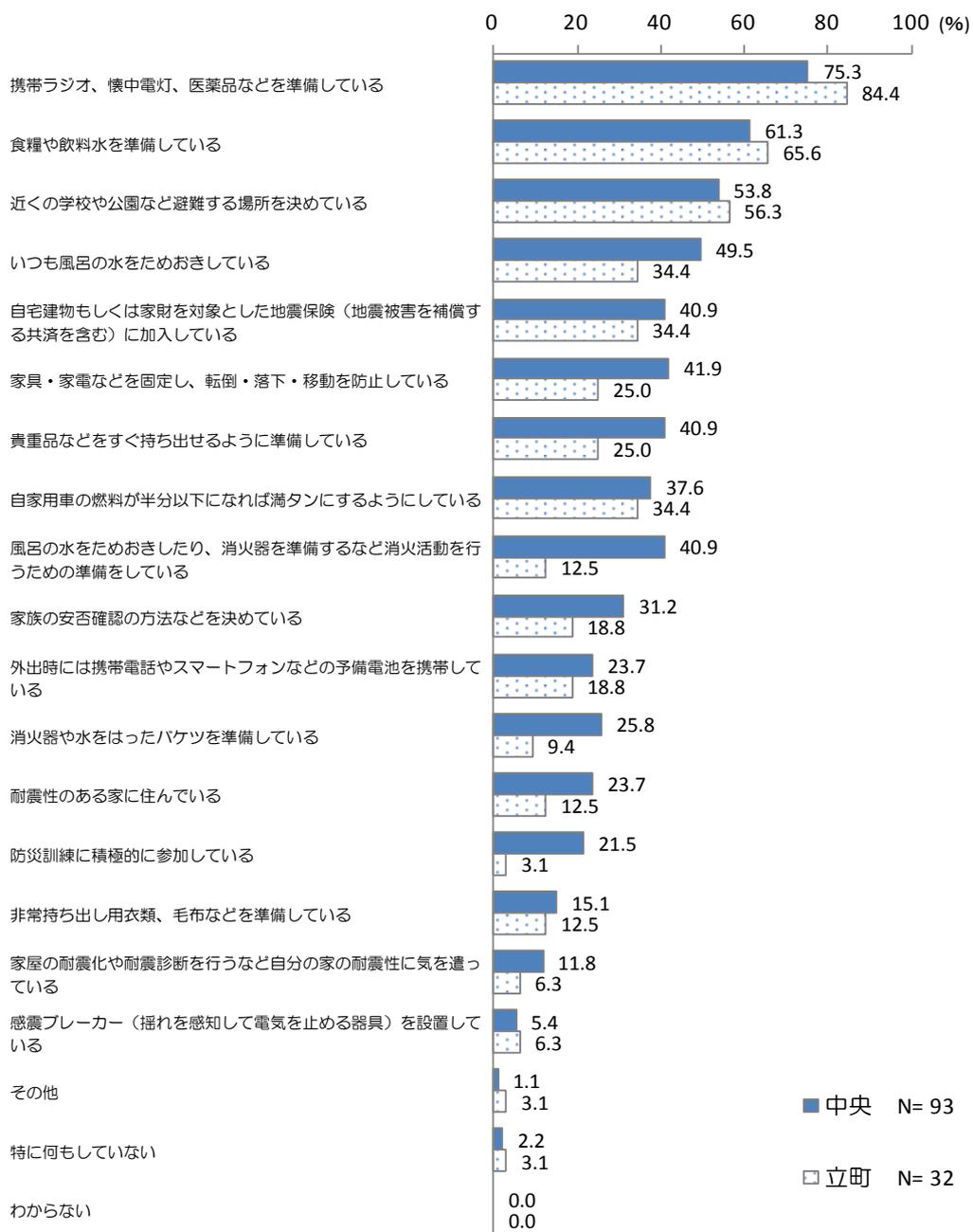
(〇はいくつでも)



この一年間で行った防犯対策については、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」と回答した人が最も多く、77.6%となっている。以下、「食糧や飲料水の準備をしている」(62.5%)、「近くの学校や公園など避難する場所を決めている」(54.4%)など、過半数が非常時の備蓄や避難先の選定を行っていることがわかる。

地域別にみると、食糧品の備蓄やラジオ等の準備、避難先の選定を行っている人は、立町により多く、家具の固定や消火活動（消火器の準備や風呂水のためおきなど）に関する対策は中央で多くみられる。

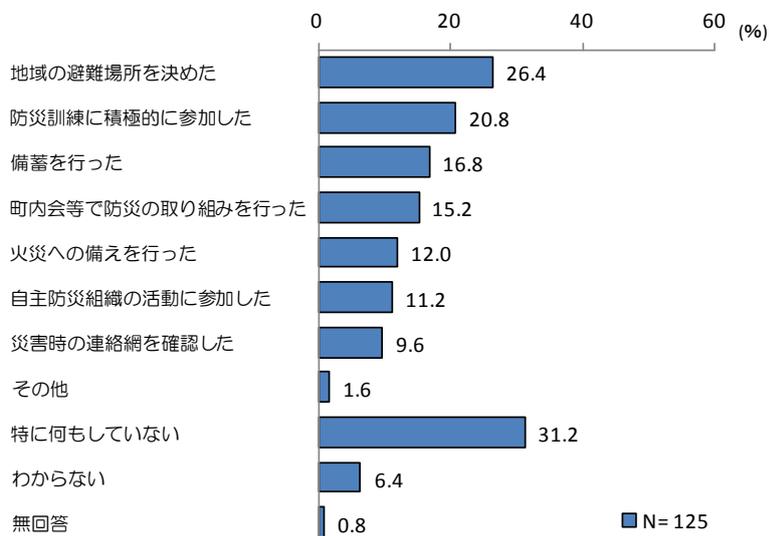
### 【地域別／防犯対策(家や店舗)】



②地域・商店街

**地域や商店街での防災対策は避難場所の決定がトップ  
個人に比べ地域での防災対策の実施率は低い**

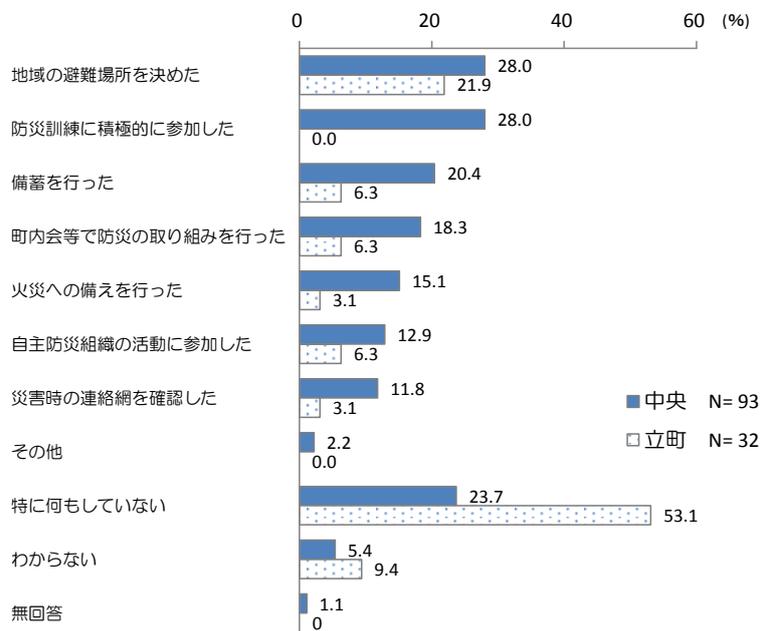
問 7 この 1 年間程度の間で、地域・商店街の防災対策として何を行いましたか。  
(〇はいくつでも)



この一年間で地域や商店街で行った防災対策については、「地域の避難場所を決めた」との回答が 26.4%と最も多く、以下「防災訓練に積極的に参加した」(20.8%)、「備蓄を行った」(16.8%)となっている。一方、3 人に 1 人が「特に何もしていない」と回答しており、個人または店舗では、防災対策を行っていない人はわずか 2%程度だったことに比べ、地域での防災対策の実施率が低いことがうかがえる。

地域別にみると、立町では半数以上が「特に何もしていない」と回答しており、防災対策の実施率は立町に比べ中央で高い。

**【地域別／防災対策(地域・商店街)】**

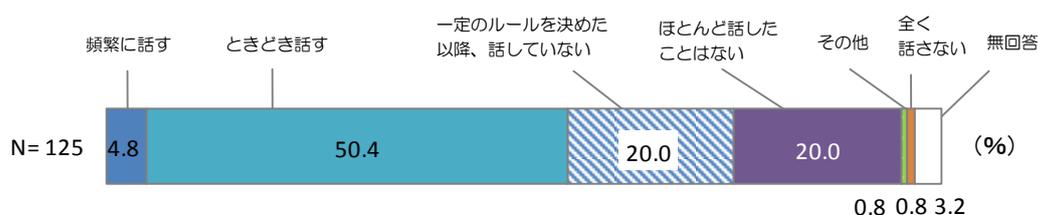


## (2)防災について身近な人と話す頻度

「頻繁に話す」+「ときどき話す」人が過半数  
 防災に関する意識を日頃から持っている人が多い

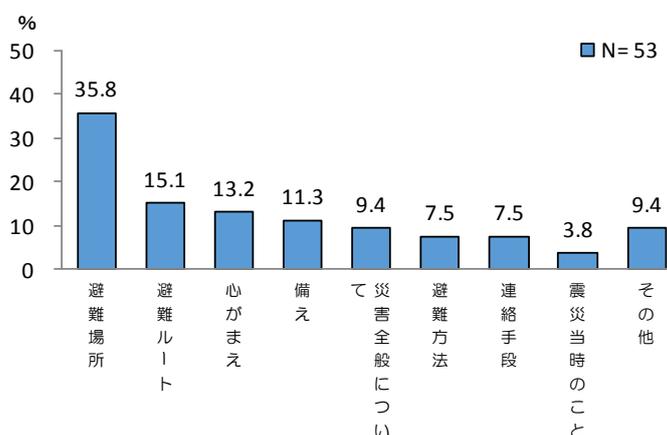
問 8 家族や職場、もしくは身近な人と、防災について話すことはありますか。

(○は1つ)



【問 8 で「1」～「2」と回答した方のみ】

問 9. 防災について、最もよく話題にすることは何ですか。

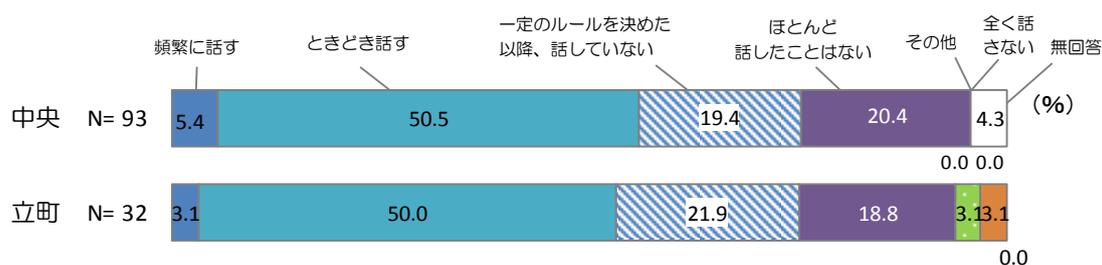


防災について身近な人と話す頻度について、「ときどき話す」人が 50.4% と最も多い。「頻繁に話す」と合わせると防災に関する会話の頻度の高い人は過半数を占めており、日頃から防災意識を持っている人が多いことがうかがえる。

地域別にみると、防災に関する会話の頻度の高い人は立町に比べ、中央でやや多い。

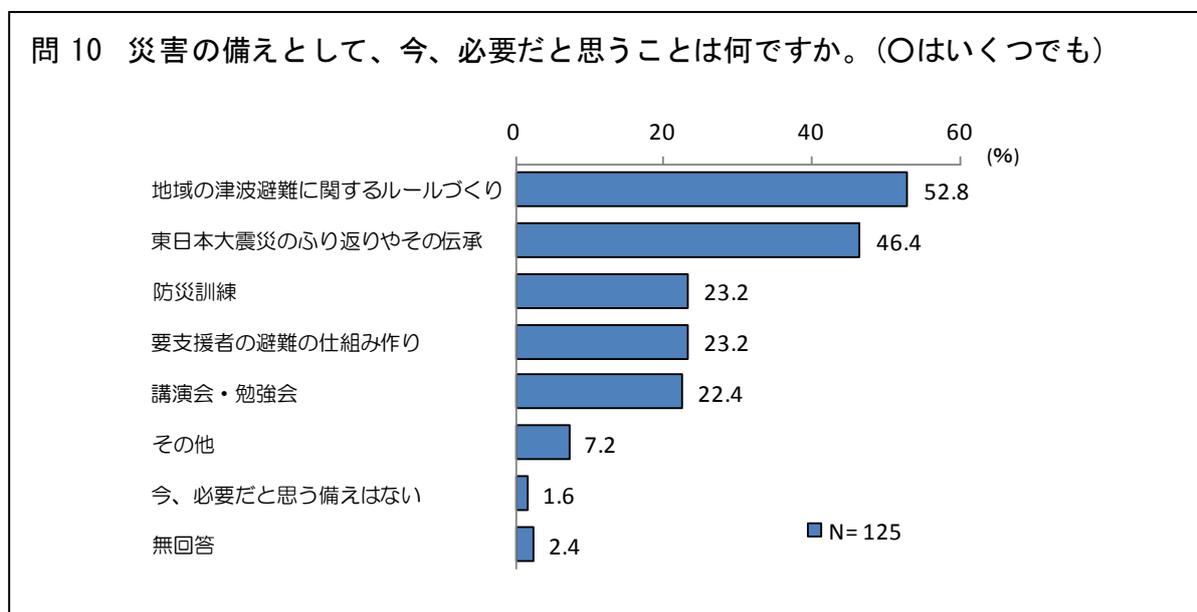
防災についての話題としては、「避難場所」に関するものが最も多く、ほか、避難ルートや普段の備えや心構えなどについての話題もみられる。

### 【地域別／防災について身近な人と話す頻度】



### (3)必要な災害の備え

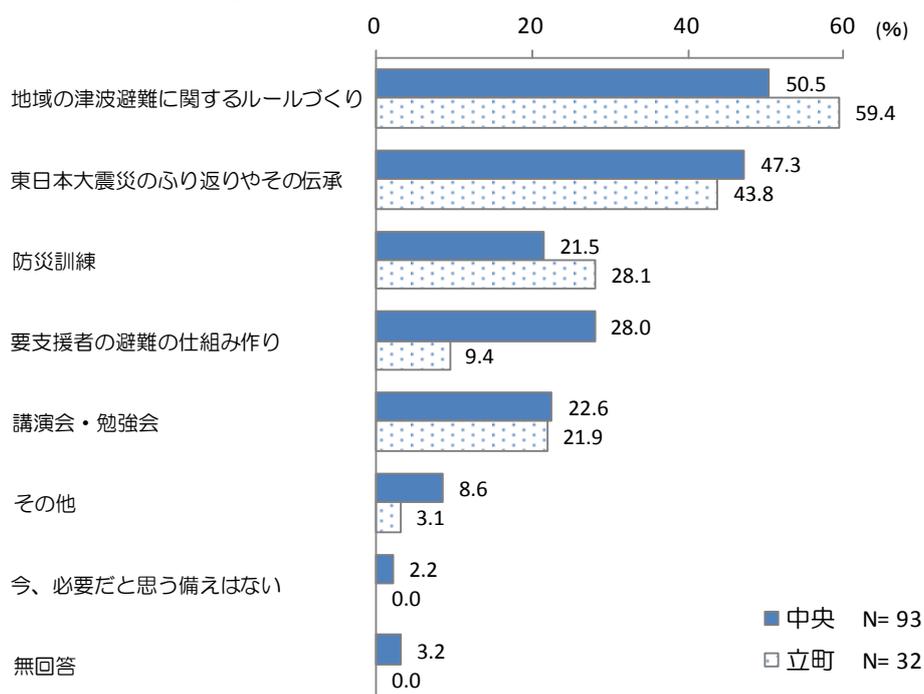
**必要な備えは「地域の津波避難に関するルールづくり」がトップ  
次いで、「東日本大震災のふり返りやその伝承」**



必要な災害の備えは、「地域の津波避難に関するルールづくり」が 52.8%と最も多い。次いで「東日本大震災のふり返りやその伝承」(46.4%)も第2位と多く、今後に向けた対策だけでなく過去の震災のふり返りや伝承も重要と考えている人が多い。

地域別にみると、「地域の津波避難に関するルールづくり」との回答は中央に比べ、立町でやや多く、「要支援者の避難の仕組み作り」は中央に多い。

#### 【地域別／必要な災害の備え】



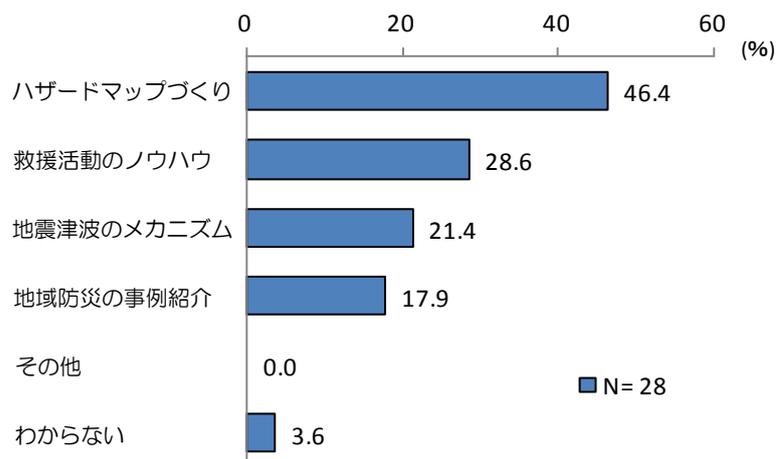
#### (4)知りたい内容

### 講演会や勉強会で知りたい内容は「ハザードマップづくり」がトップ

【問 10 で「2. 講演会・勉強会」と回答した人のみ】

問 11 具体的に知りたい内容を選択してください。(○は1つ)

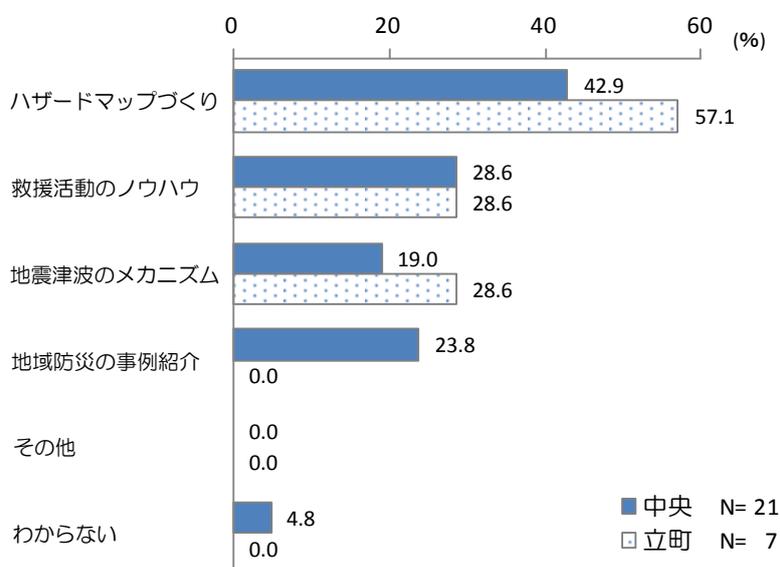
※複数回答が多数あり、これを有効として多肢式で集計している



必要な災害の備えで講演会・勉強会と答えた人に知りたい内容についてたずねたところ、「ハザードマップづくり」との回答が 46.4%と最も多く、以下「救援活動のノウハウ」(28.6%)、「地震津波のメカニズム」(21.4%)となった。

地域別にみると、「ハザードマップづくり」との回答は立町で多く、「地域防災の事例紹介」は中央で多い。

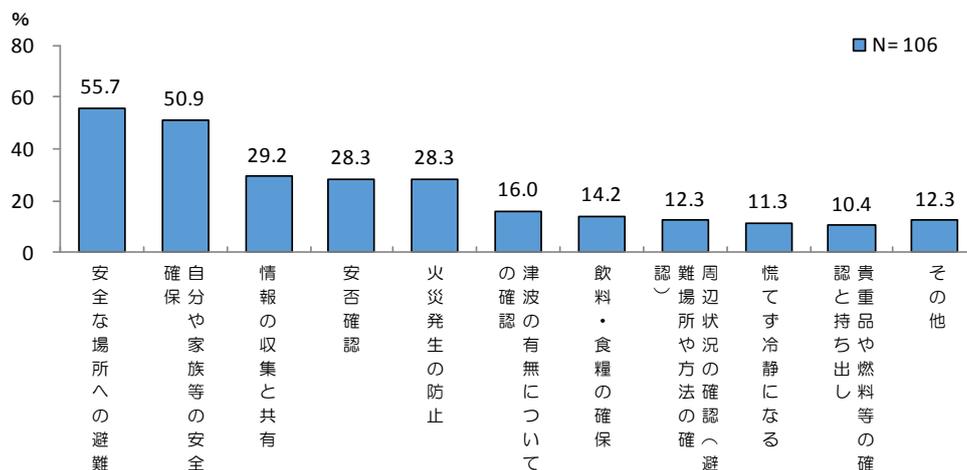
#### 【地域別／知りたい内容】



## (5)地震の発生直後に心がけたいこと

### 地震発生直後に心がけたいことは、「避難」と「安全確保」

問 12 あなたは、大きな地震が起きた直後に、どのような行動を心掛けたいと考えていますか。3つ、お書きください。



地震発生直後に心がけたい行動について自由な意見をたずねたところ、106人から285件の意見が得られた。

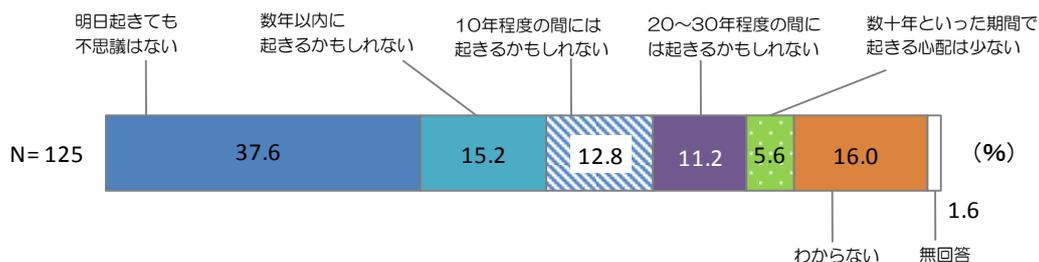
得られた意見を要旨ごとに分類したところ、「安全な場所への避難」が55.7%と最も多く、次いで「自分や家族等の安全の確保」が50.9%と、身の安全に関する項目が上位を占めた。

また、情報の収集・共有や安否確認、火災発生の防止などについても比較的回答が多く、4人に1人が心がけたい行動として回答している。

## (6)地震・津波が起きる危険性について

地震・津波が「明日起きても不思議はない」との回答がトップ  
3人に1人が常に地震・津波への危機感を抱いている

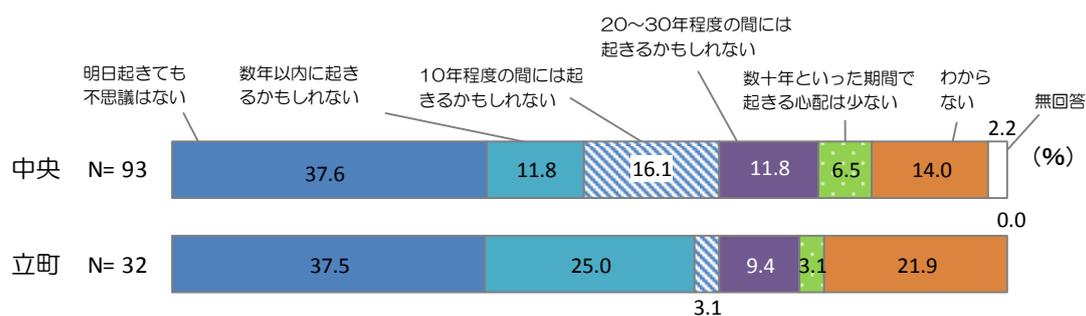
問 13 あなたは、この地域（石巻中央周辺）で再び避難が必要な地震・津波が起きる危険性をどのように考えていますか。（○は1つ）



津波が起きる危険性について、「明日起きても不思議はない」と常に危機感を抱いている人が37.6%と最も多く、「数年以内に起きるかもしれない」と回答した人を合わせると、危機感の高い人は52.8%と過半数を占める。

地域別にみると、危機感の高い人（「明日起きても不思議はない」＋「数年以内に起きるかもしれない」）は中央に比べ立町で多く、62.5%を占めている。

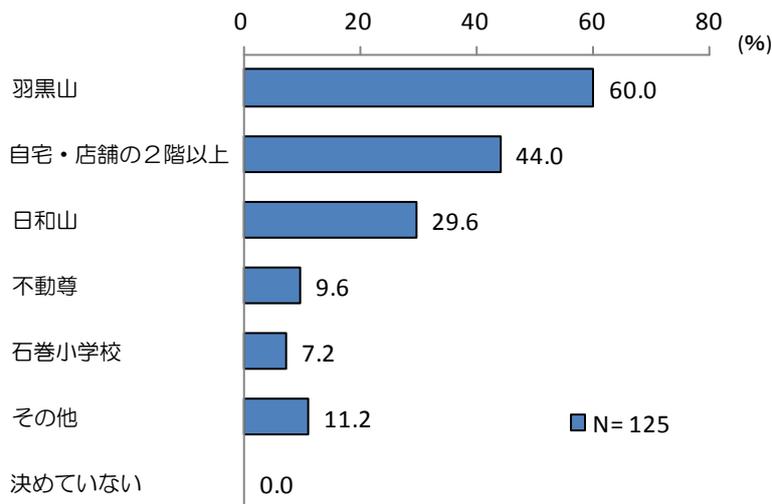
### 【地域別／地震・津波が起きる危険性について】



## (7)避難する場所

避難場所は「羽黒山」がトップ。約6割が回答  
「自宅・店舗の2階以上」も約4割。

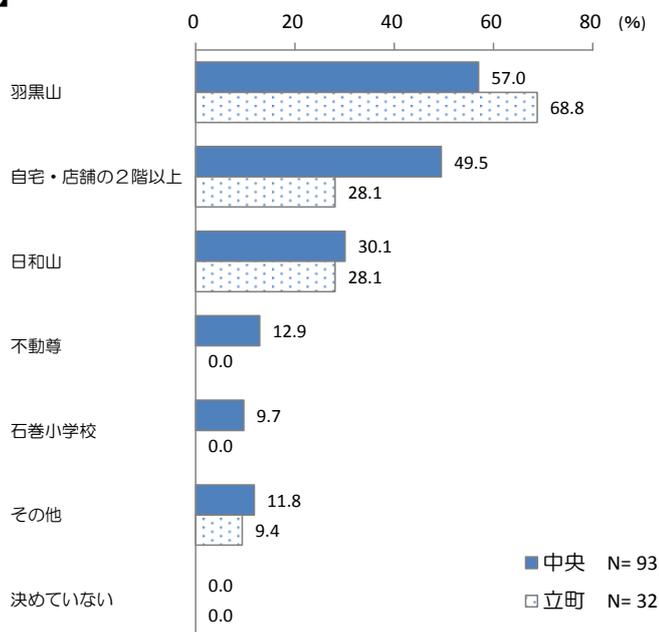
問 14 あなたが、この地域（石巻中央周辺）で津波の危険を感じた際に、避難する場所（高台など）はどこですか。（〇はいくつでも）



津波の危険を感じた場合の避難場所としては、「羽黒山」が60.0%と最も多くなっている。以下「自宅・店舗の2階以上」（44.0%）との回答も多く、近隣の高台への避難ではなく、自宅避難が安全と考えている人も多いことが分かる。

地域別にみると、立町では「羽黒山」へ避難する人が多く、中央では「自宅・店舗の2階以上」に避難する人が多い。

### 【地域別／避難する場所】



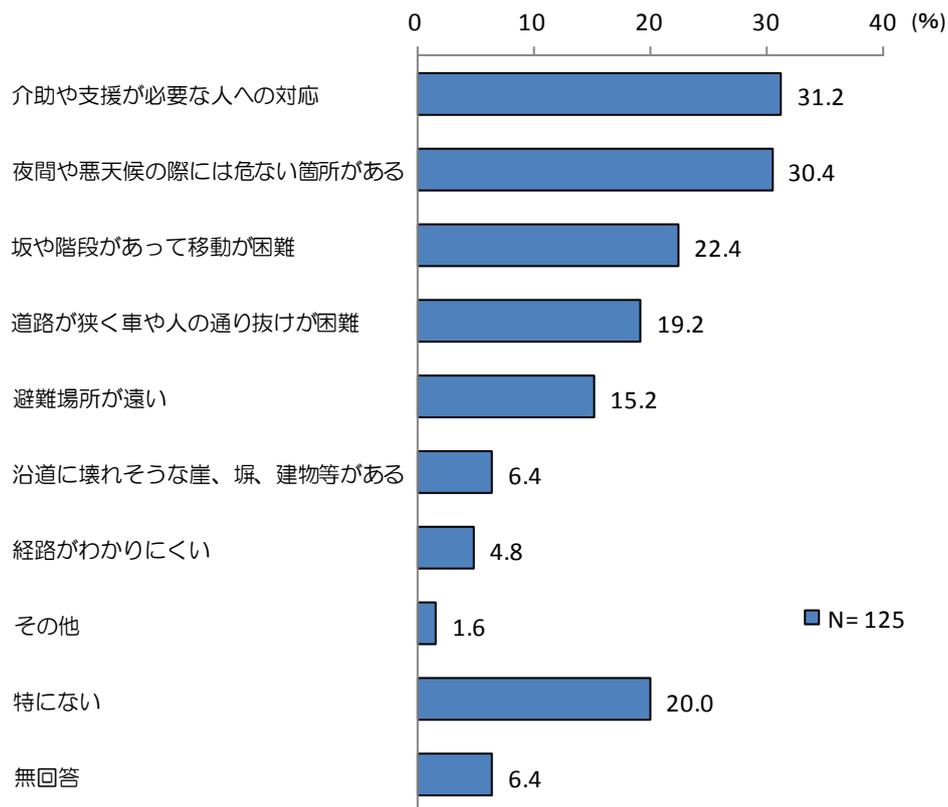
## (8)避難中の問題点

### 避難中の問題点は要支援者への対応や 夜間や悪天候の際の危険個所など

【問 14 で「1」～「6」と回答した人のみ】

問 15 避難場所までの避難について、何か問題を感じることはありますか。

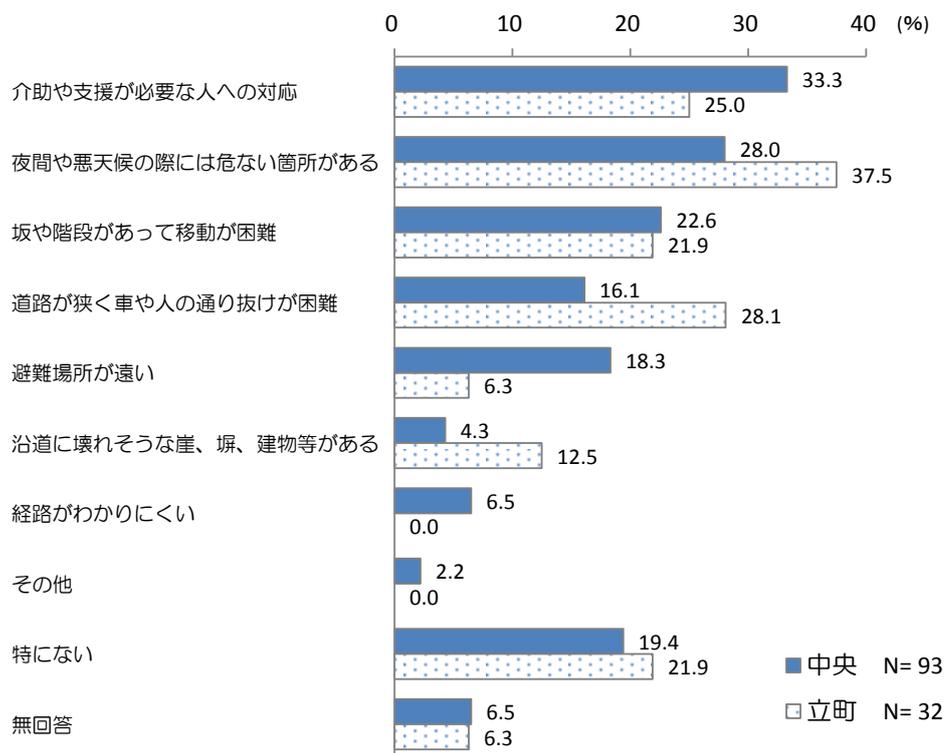
(○はいくつでも)



避難中の問題点は、「介助や支援が必要な人への対応」(31.2%)や「夜間や悪天候の際には危ない箇所がある」(30.4%)がともに3割以上と多い。

地域別にみると、中央では要支援者への対応や避難場所の遠さについて挙げている人が多く、立町では、夜間や悪天候の際の危険個所や道路の狭さを問題視している人が多い。

### 【地域別／避難中の問題点】

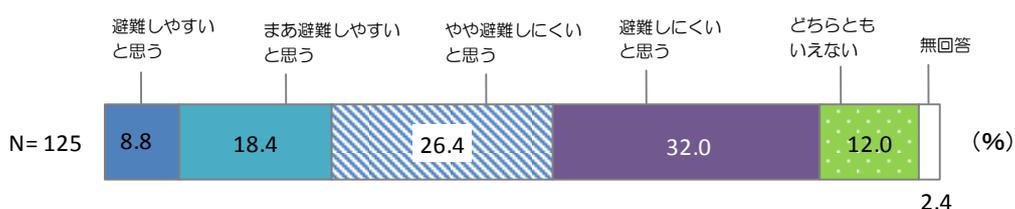


### (9) 来街者が避難しやすいまちか

来街者が避難しにくい街だと考えている人が全体の6割弱

問 16 現在、この地域（石巻中央周辺）は、災害時に地域をよく知らない来街者の方でも避難しやすい街だと考えますか。それとも避難しにくい街だと考えますか。

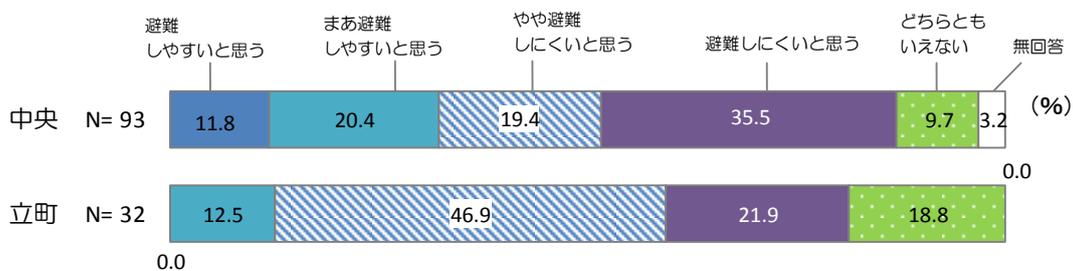
(○は1つ)



災害時に来街者が避難しやすい街だと思うかどうかをたずねたところ、「避難しにくいと思う」との回答が 32.0%と最も多く、「やや避難しにくいと思う」を合わせると、避難しにくい街だと考えている人が全体の6割弱を占める。

地域別にみると、避難しにくい街だと考える人は立町に多く、7割弱を占めている。

#### 【地域別／来街者が避難しやすいまちか】



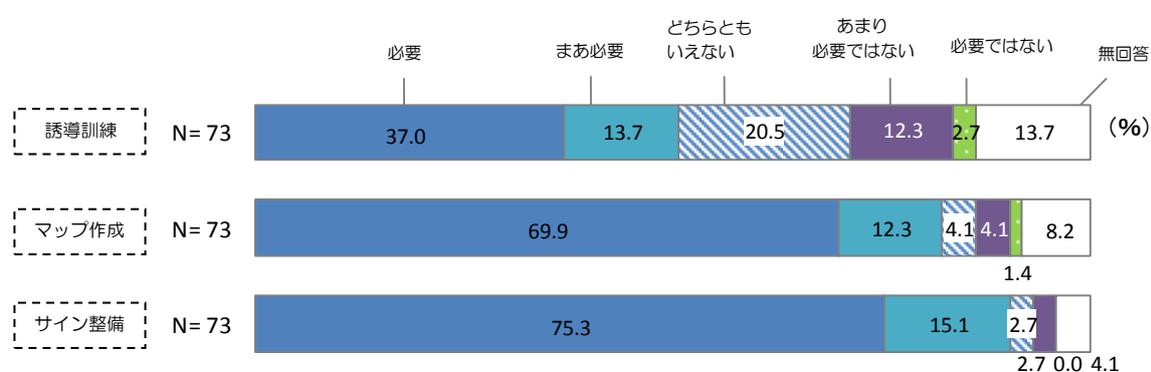
## (10) 来街者が安全に避難するために必要な取り組み

### 「避難マップの作成」「避難道路への案内表示の整備」は 約7割が必要と回答

【問16で「3. やや避難しにくいと思う」「4. 避難しにくいと思う」と回答した方のみ】

問17 災害時に地域をよく知らない来街者の方に安全に避難して頂くために、以下のような取り組みが必要と考えますか。必要ではないと考えますか。(それぞれ○は1つ)

- (1) 来街者を誘導する想定や訓練を行う
- (2) 来街者向けの避難マップを作成し、配布したり案内板に示す
- (3) 避難経路に特徴的なサイン（案内表示など）を整備する

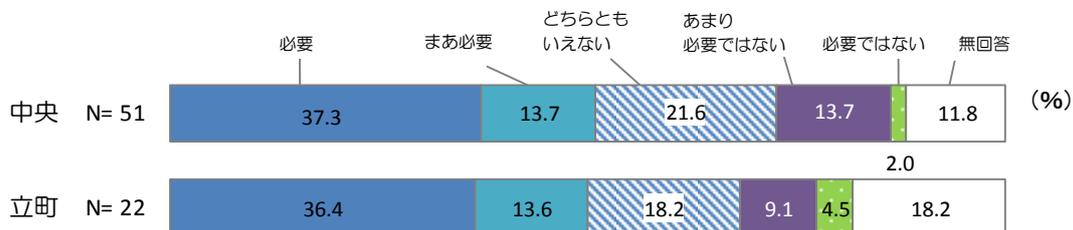


災害時に来街者に安全に避難してもらうために必要な取り組みについてたずねた。その結果、来街者を誘導する想定や訓練を「必要」と考える人は4割弱であるのに対し、避難マップの作成や配布、避難経路への案内表示の整備は7割前後が「必要」と回答しており、避難時の来街者にわかりやすい情報の提供が必要とされていることがうかがえる。

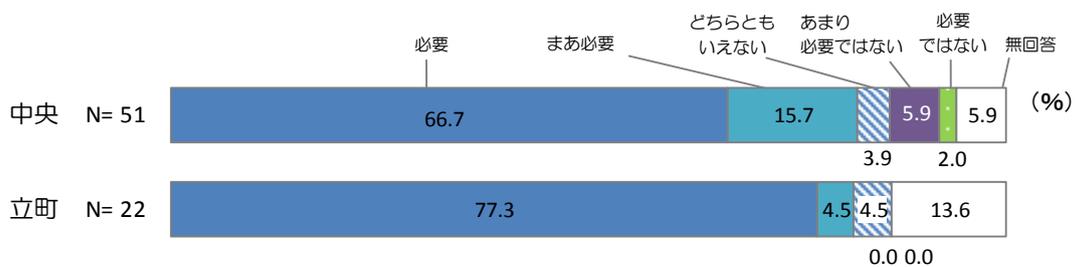
地域別にみると、来街者を誘導する想定や訓練については地域ごとの特徴的な差は見られないが、避難マップの作成や配布、避難経路への案内表示の整備に関しては中央に比べ立町で「必要」との回答が多く、特に案内表示の整備は約9割が必要性を唱えている。

## 【地域別／来街者が安全に避難するために必要な取り組み】

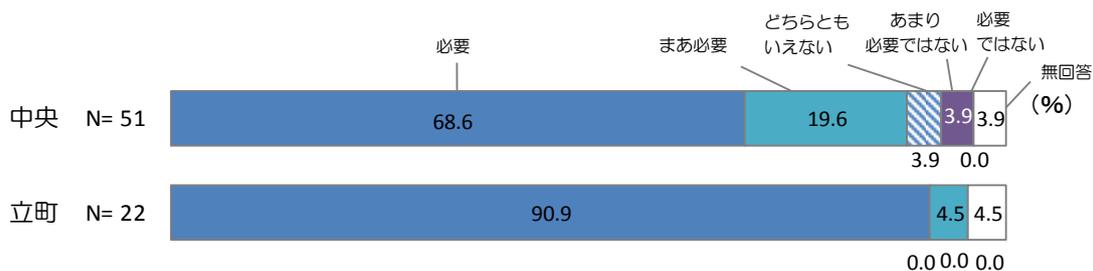
(1) 来街者を誘導する想定や訓練を行う



(2) 来街者向けの避難マップを作成し、配布したり案内板に示す



(3) 避難経路に特徴的なサイン（案内表示など）を整備する

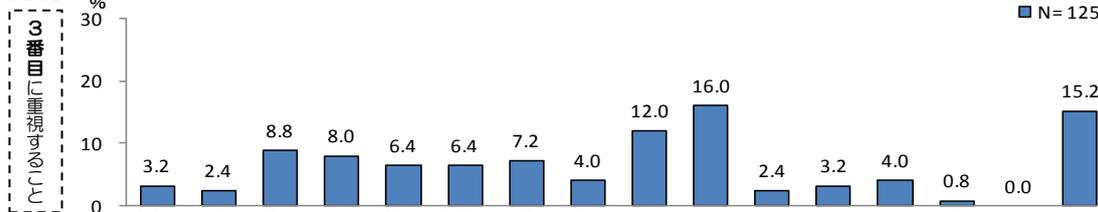
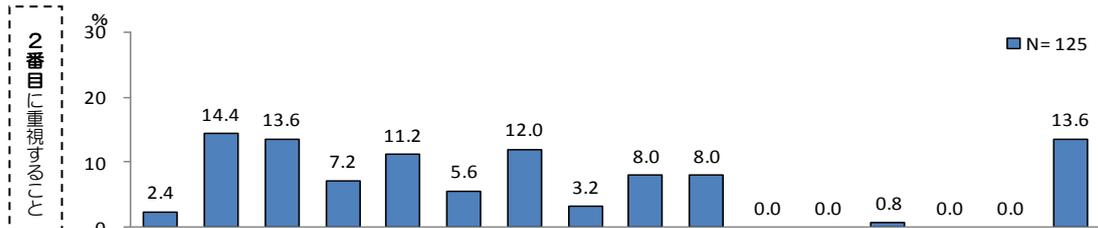
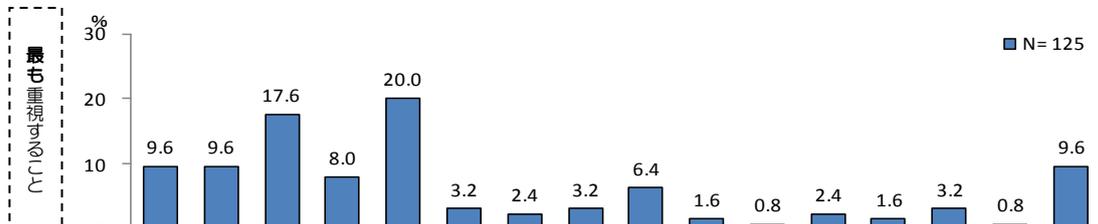
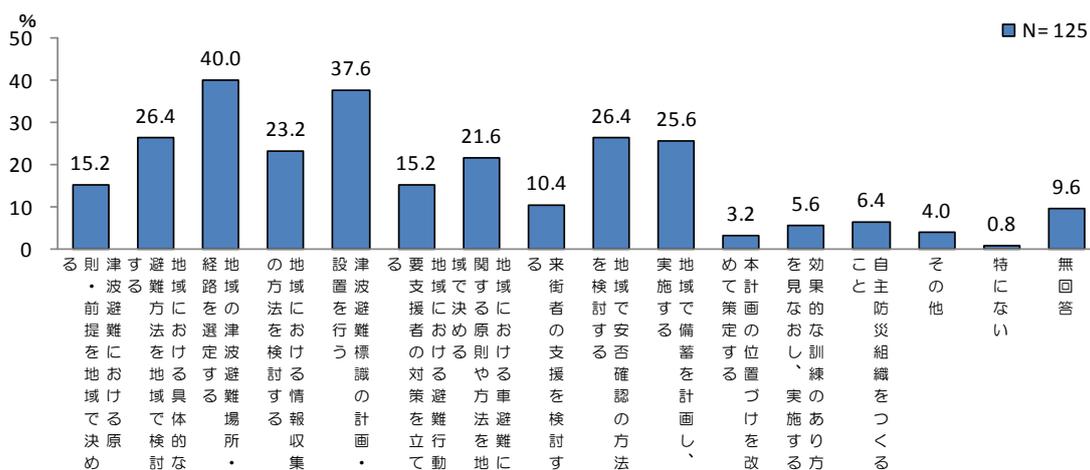


(11)津波避難で特に重視するもの

津波避難で最も重視するものは  
「避難標識の計画・設置」「避難場所や経路の選定」

問 18 この地域で津波に対する避難を考える上で、あなたが特に重視すべきと考えるものを、以下の選択肢から選び、(1)～(3)に1つずつお答えください。

※その他を選択した場合は、回答欄に具体的な意見をご記入ください。



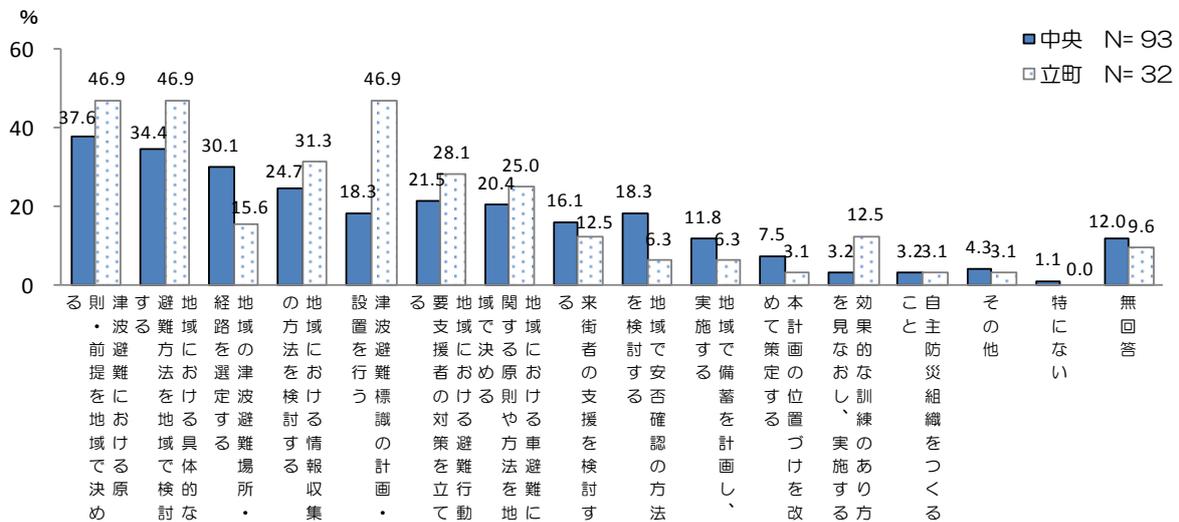
地域での津波避難を考える上で重要なことについて「最も重要なこと」、「2番目に重要なこと」、「3番目に重要なこと」についてそれぞれたずねた。

回答のあったすべての項目を合算したところ、津波避難で重要なこととしては、「地域の津波避難場所・経路を選定する」「津波避難標識の計画・設置を行う」との回答が約4割と多くみられた。

また、最も重視することとしては「津波避難標識の計画・設置を行う」が20.0%と最も多く、避難標識の設置によるスムーズな避難を重視していることがうかがえる。

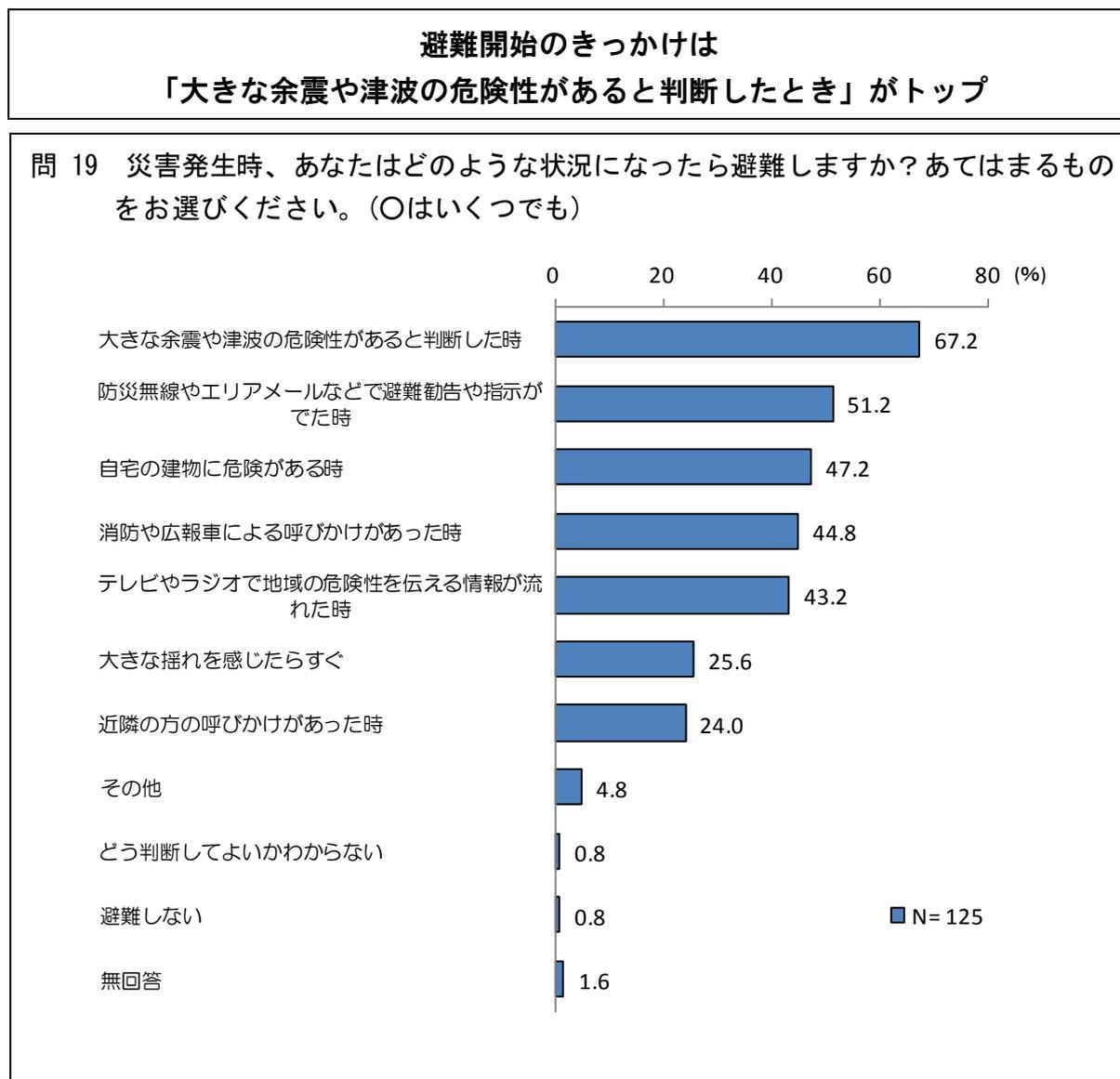
地域別にみると、立町では「津波避難標識の計画・設置を行う」との回答が多く、約半数を占めている。また、地域での避難方法や原則・前提の検討についても、中央に比べ重視する声が多くみられる。

### 【地域別／津波避難で特に重視するもの】



## 2. 今後の防災対策について

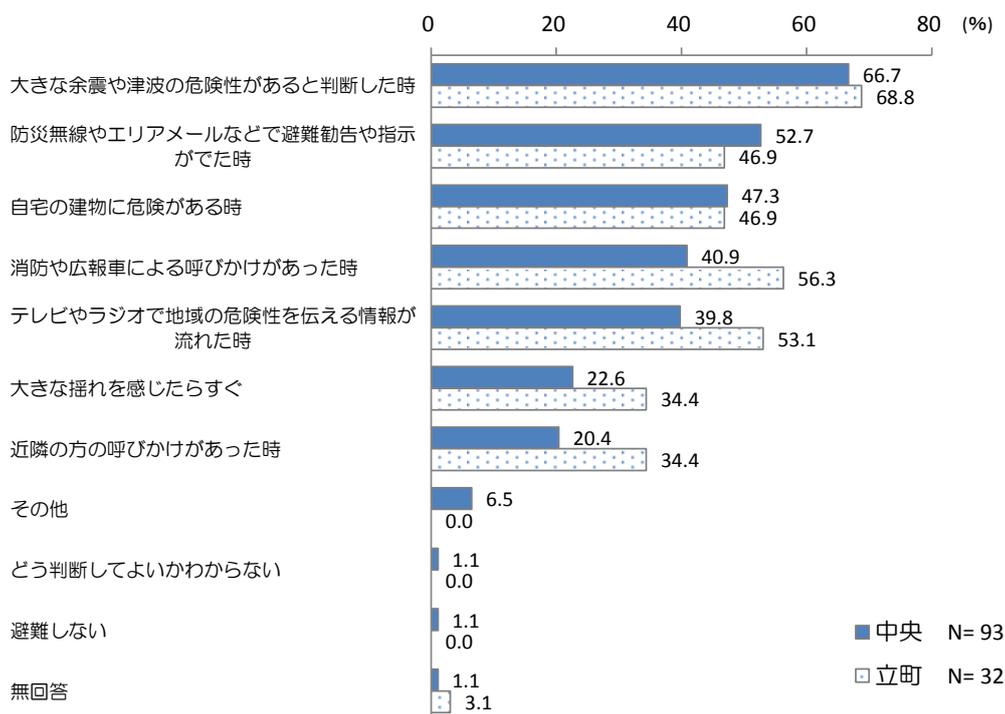
### (1) 避難を判断するきっかけや状況



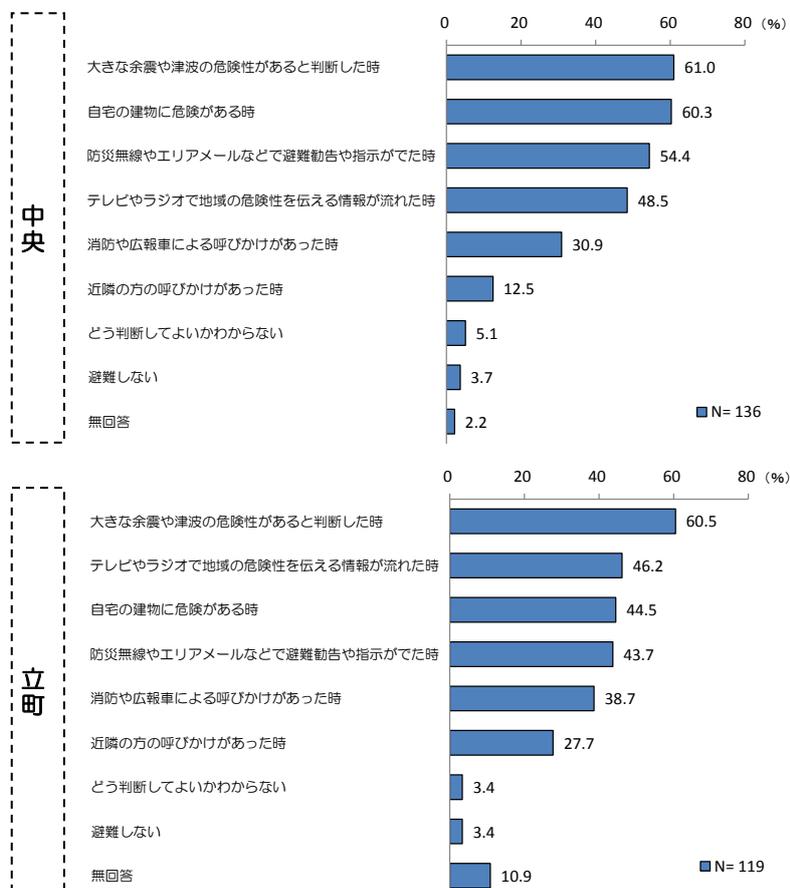
災害発生時に避難を判断するきっかけは、「大きな余震や津波の危険性があると判断したとき」が67.2%と最も多く、以下「防災無線やエリアメールなどで避難勧告や指示がでた時」(51.2%)、「自宅の建物に危険がある時」(47.2%)と、上位項目には能動的な意見が多く、他者からの情報ではなく、自らの判断をきっかけとして避難を開始していることがわかる。

地域別にみると、立町では消防や広報車による呼びかけやテレビやラジオの情報が流れたときの回答が中央に比べ多い。

## 【地域別／避難を判断するきっかけや状況】



## 【前回比較／避難を判断するきっかけや状況】



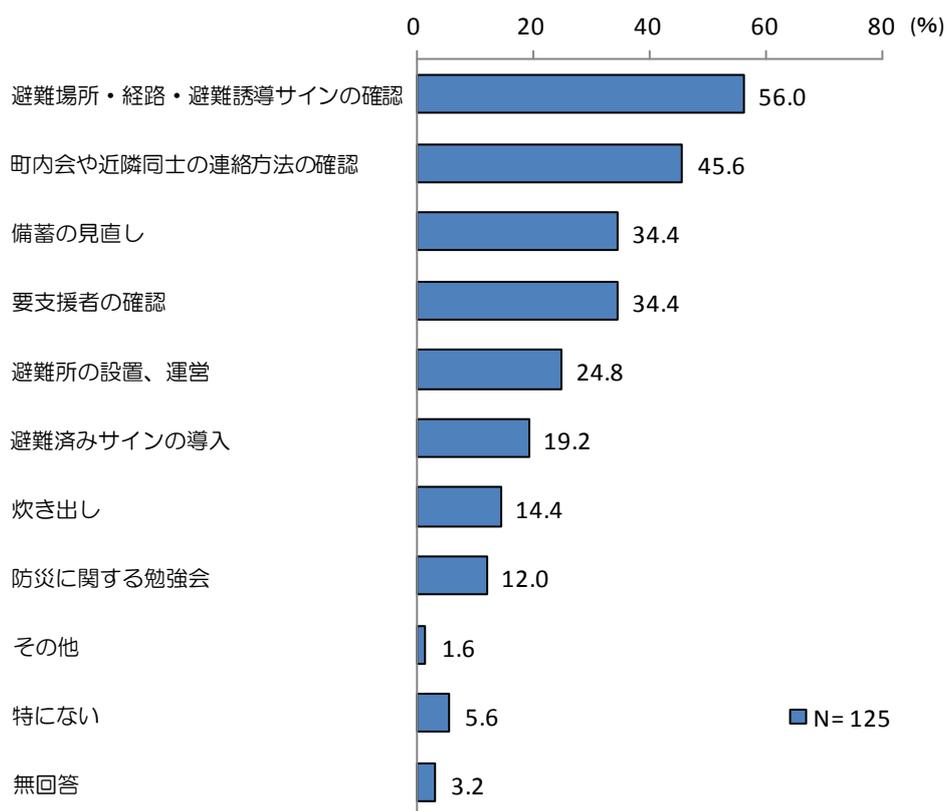
避難開始のタイミングについて昨年度の調査結果と比較すると、トップ項目に変化はないが、昨年2位であった「自宅の建物に危険があるとき」との回答が減少し、防災無線やエリアメール等の情報の認知が第2位となっている。

立町でも同様に、トップ項目に変化はないが、「消防や広報車による呼びかけがあったとき」との回答が昨年から約18ポイント上昇しており、第2位となっている。

## (2)総合防災訓練で取り組むべき事

### 総合防災訓練で取り組むべきことは 「避難場所・経路・避難誘導サインの確認」がトップ

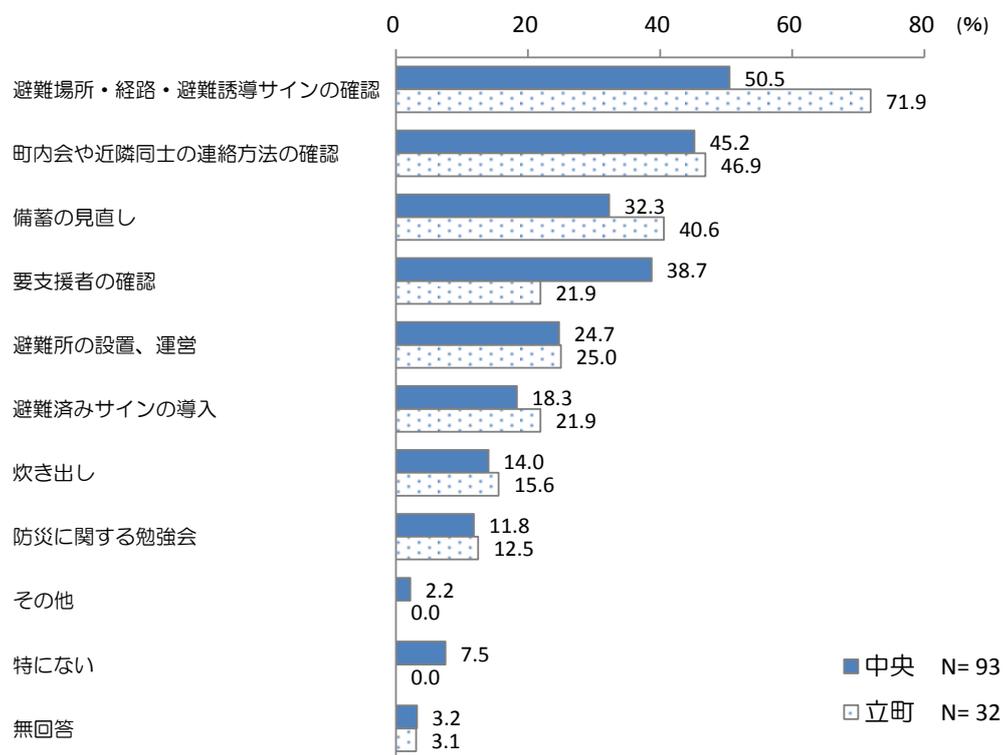
問 20 年に一度行われる市の総合防災訓練の機会に、地域で取り組むとよいと思われる事柄をお選びください。(〇はいくつでも)



総合防災訓練の際に地域で取り組むべきことは、「避難場所・経路・避難誘導サインの確認」が56.0%と最も多く、以下「町内会や近隣同士の連絡方法の確認」(45.6%)となっている。

地域別にみると、立町では「避難場所・経路・避難誘導サインの確認」との回答が約7割と多く、中央では「要支援者の確認」との回答が目立つ。

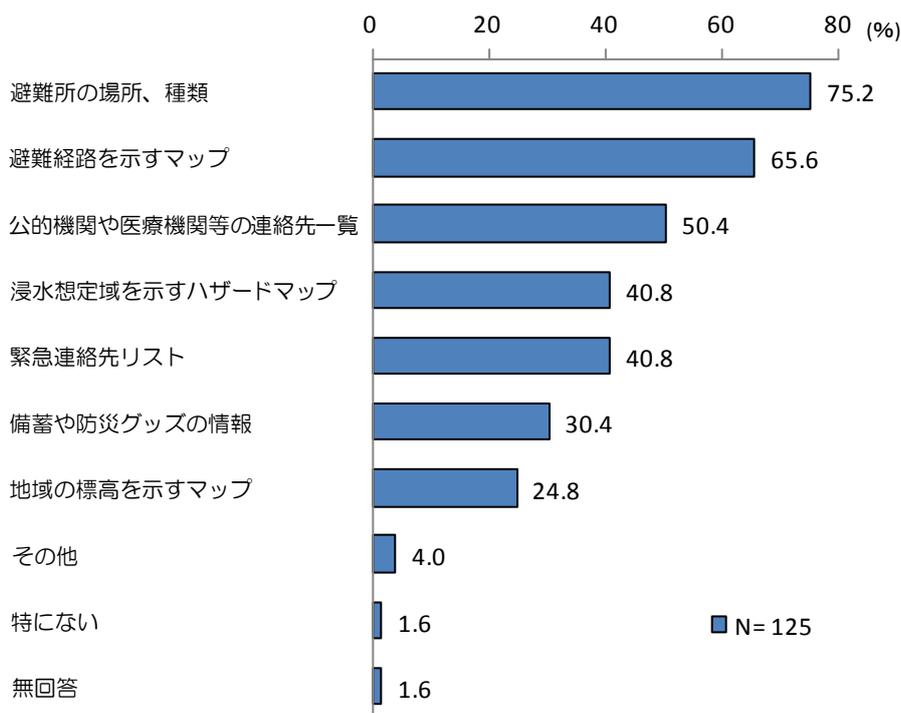
## 【地域別／総合防災訓練で取り組むべき事】



### (3)街なか防災ハンドブックに取り入れるべき情報

#### 街なか防災ハンドブックに入れる情報は 「避難所の場所や種類」「避難経路を示すマップ」

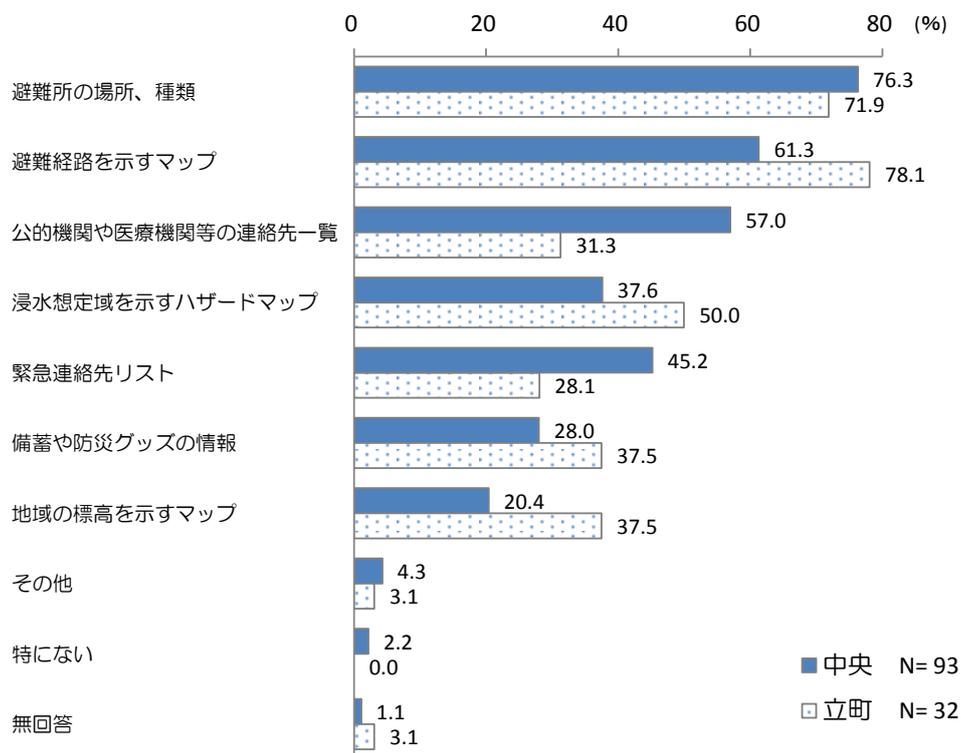
問 21 新しく移り住んでくる人や次世代に向けて、街なか防災ハンドブック等を作るとしたら、いれておくべきと考える情報は何か。(〇はいくつでも)



街なか防災ハンドブックに取り入れるべき情報としては、「避難所の場所、種類」が 75.2%と最も多く、以下「避難経路を示すマップ」(65.6%)、「公的機関や医療機関等の連絡先一覧」(50.4%)の順となっている。

地域別にみると、中央では「公的機関や医療機関等の連絡先一覧」や「緊急連絡先リスト」などの連絡先等の情報を求める回答が多く、立町では「避難経路を示すマップ」や「浸水想定域を示すハザードマップ」「標高の高さを示すマップ」など地図情報へのニーズが高い。

【地域別／街なか防災ハンドブックに取り入れるべき】

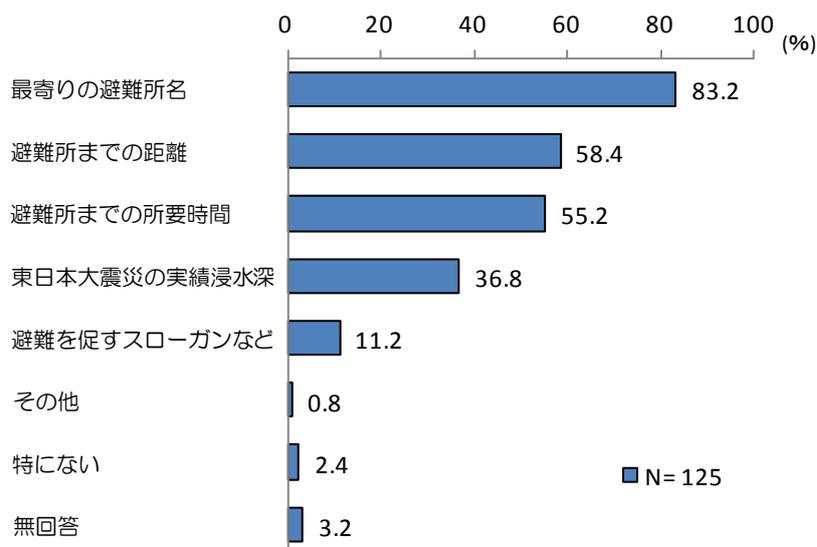


#### (4)避難誘導サインに必要だと思う情報

避難誘導サインに必要だと思う情報は「最寄りの避難所名」がトップ  
避難所までの「距離」や「所要時間」も過半数が回答

問 22 地域に設置する避難誘導サインに必要だと思う情報は何ですか。

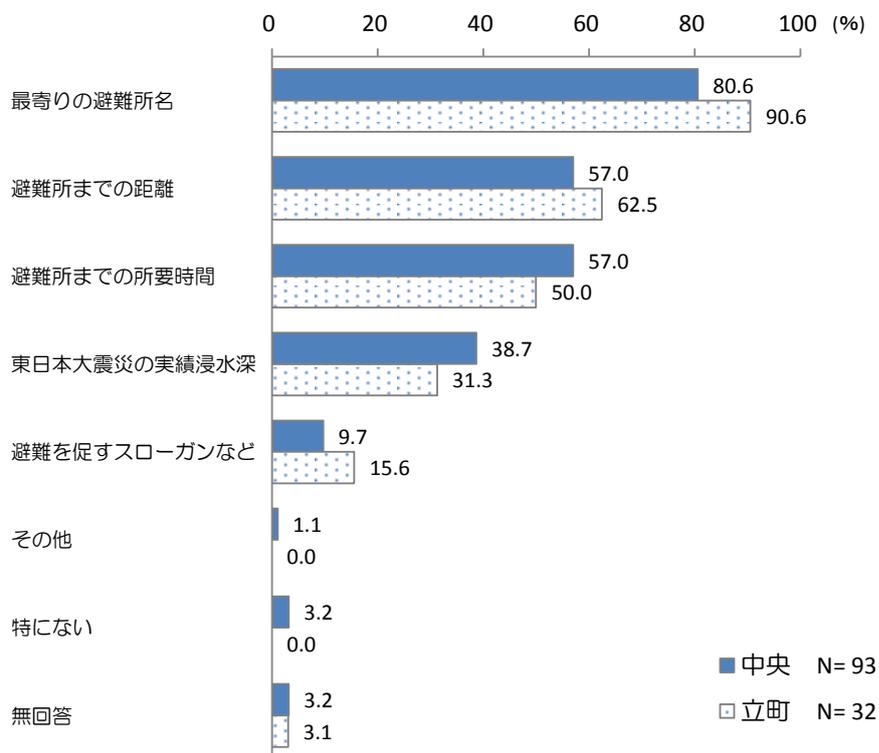
(〇はいくつでも)



地域に設置する避難誘導サインに必要だと思う情報は、「最寄りの避難所名」が 83.2%と最も多く、以下「避難所までの距離」(58.4%)、「避難所までの所要時間」(55.2%)の順となっている。上位3項目はいずれも避難所に関する情報となっており、避難誘導サインには円滑な避難を促す情報が求められている。

地区別にみると、立町では「最寄りの避難所名」「避難所までの距離」との回答がより多く、中央では「避難所までの所要時間」「東日本大震災の実績浸水深」との回答が立町に比べ目立つ。

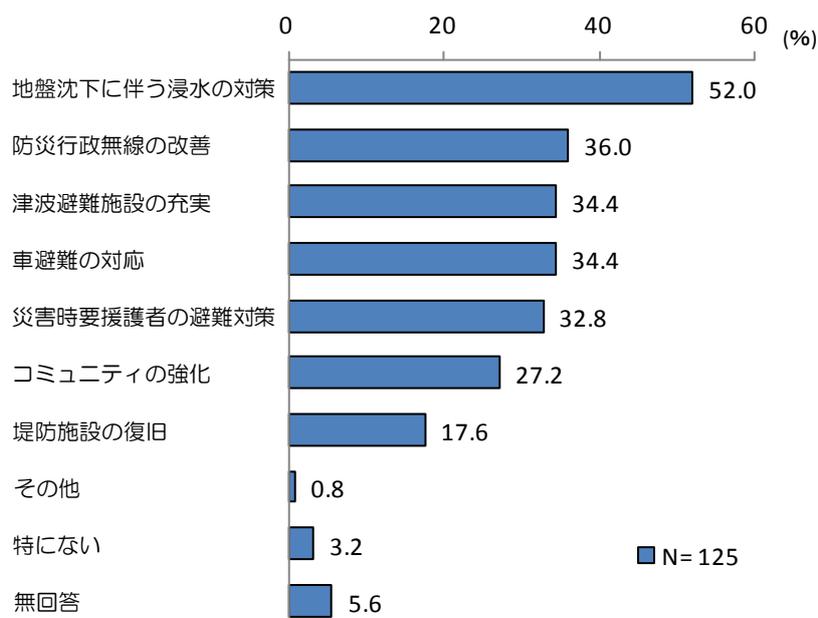
【地域別／避難誘導サインに必要だと思う情報】



## (5)地域の困りごと・悩み事

### 困りごとには半数以上が「地盤沈下に伴う浸水の対策」 防災無線や避難施設、要援護者対策など避難のあり方に関する悩みも3割

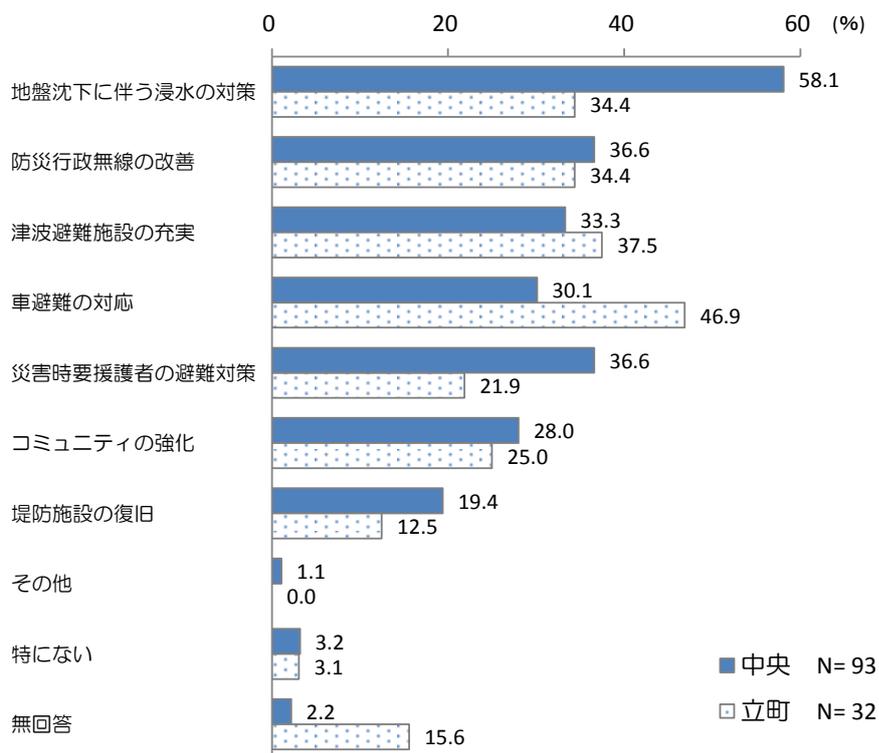
問 23 これからの防災・減災を考える上で、あなたや地域の困りごと・悩み事がありますか。あてはまるものをお選びください。(〇はいくつでも)



地域の困りごと・悩み事については、「地盤沈下に伴う浸水の対策」が52.0%と最も多く、過半数を占めている。以下「津波避難施設の充実」「車避難の対応」「災害時要援護者の避難対策」など、避難方法や避難のあり方に関する悩みも3割以上となっている。

地域別にみると、「地盤沈下に伴う浸水の対策」は中央で特に多く約6割が回答している。一方立町では「車避難の対応」が46.9%と中央に比べ多い。

## 【地域別／地域の困りごと・悩み事】



### 3. 自由意見

#### (1) 語り継ぎたい震災の教訓

語り継ぎたい震災の教訓	性別	年齢
店内に特に高齢者のお客様が在店の際は陳列棚、ケース商品が散乱し足の踏み場もない状態となるので2F、3Fの余裕のある場所へ鎮静時まで待機してもらおう。	男性	80代以上
自己の判断により身の安全を確保する。	男性	50代
特に男性に言えることだが、あまりにもサバイバルスキルが不足している。生きのびる為にもボーイスカウト経験者等。スキルを持つ人間から技術を学ぶ事や、避難する上でのルールをしっかりと伝え、自分の身は自分で守るという事を伝えるべきと考えます。加えて、高齢者等の「避難弱者」に対する考え方（誘導のしかた）も学ぶべきと考えます。	男性	30代
1人で避難せず、複数で。	男性	50代
もし夜間、早朝に大地震が発生する最悪の事態を想定し対応を考えたい。	男性	70代
大きい地震が来たらすぐ逃げる。	女性	50代
防災無線の改善。	女性	70代
防災無線の聞き取りやすさへの改善。	男性	70代
平日、日中の場合は子供は学校。家の者はすぐ山へ逃げる。	女性	40代
避難の基本的な準備・マニュアルは必要ですが全て同じ災害は無く災害の度に状況が違おうと思うのでその時の災害の情報・災害の性質・状況を把握し、実態に合せ臨機応変に対処する事が重要だと思います。	男性	50代
出かけている時等安否確認出来ず、ましてや怖さで頭まっ白いかに冷静に（＝情報（ウワサ）に流されず目で、足で・まず落ち着かないと）対処するか？反省すべきこといっぱいあり。	女性	70代
災害が起きた時に冷静でいられるか？それには災害が起きたら自分はどうか行動すればいいか普段から考えておく事が重要。いい意味で災害に「臆病」になる。	男性	40代
津波避難をしたら絶対に戻らない。	女性	60代
個人個人が自ら進んで避難する事です。今回の震災では家族の安否確認の為に自宅へ戻った方や、近隣への呼びかけに時間を要した方も数多く犠牲になっているので、それらを防ぐ為にも、家族内での避難方法の決定や個人の防災に対する意識を高める事が大事だと思います。	女性	30代
避難経路の確認。家族内での避難先の統一と確認（安否確認方法）。避難所でのケア（衛生、感染症対策）。	女性	50代
隣近人の方声かけで安心感を持たた。	男性	70代
火事を出さない事。	男性	60代
災害は、いつどこで起きるか予測出来ないので、状況に応じた臨機応変な対応を自分で判断するしかないので、マニュアル等は無意味であると思う。それよりも素早い個人の判断と行動をいかに徹底して行い、不用意な行動をしない事が重要であると思う。	男性	50代
命、てんでんと言う通り、まず自分自身の身の安全確保、次に、即、移動しない事が重要と考えます。	男性	60代
まず、自分の身は自分で守る。	女性	60代

語り継ぎたい震災の教訓	性別	年齢
大きな津波が来るという認識が全くなかったので後世に「必ずある事として」末永く伝えてゆく事が大切。	女性	70代
避難指示があったらしたがう。	女性	70代
大津波は想定外だった。	男性	70代
避難場所の確保。	男性	60代
口コミの色々な情報にまどわされない。家に1台石油ストーブがあると非常に助かる。家具の耐震対策は必ずしておくべき。	女性	30代
地名の成り立ち、その地域の歴史に関心をもつべきでした。	女性	60代
津波の時は、必ず避難する。	男性	50代
とにかく避難する。	男性	60代
津波の情報が十分に伝わらなかったため、自分からきちんと確認していきたくと思います。	女性	60代
地震がきたら火災にならぬ様、火（→電気のブレーカー等）ガスの栓を止める様、ラジオ、その他の情報で津波が来るのを知る。	男性	60代
自分のことは自分で。	女性	70代
自分の命は自分で守る。	女性	40代
避難する、しないは自分で判断する。	男性	20代
情報を正しく把握して、行動すること。	女性	60代
ここは大丈夫だと思わないこと。大丈夫と思っていてもとりあえず避難してみる。無事だったらラッキーと思えば良いだけ。（南浜町出身）	女性	50代
人はひとりでは生きていけません、近所は大切にしましょう	女性	70代
避難所へ動くのは地震が経ってからしか出来ない。津波が来るまでの時間が短ければ逃げていた途中で津波に流されます。時間との戦いであり、正確な予報を広報で知らせて、自己判断してもらえない。クソマジメに強固な建物から避難所へ行こうとして流されて死んだ人が複数あります。	男性	70代
次世代への伝承、設問の中でほとんど出て来ていること。	男性	70代
あわてない、自然に逆らわない。	男性	60代
津波を想定し高台に避難すること。	男性	50代
コミュニティの強化。	男性	60代
津波の場合→高い位置へ避難。	女性	60代
それぞれがまず逃げる。自分が生きることを考える。予想はこえるということ。経験や情報は目の前の状況とは違うということ。	男性	20代
津波が来るとわかったら高台に逃げる。	女性	20代
自分の経験からのみ判断すると過小評価につながる。	男性	30代
家族で事前に避難場所を決める。家族だけでなく他人とも助け合う。個人の直感も大事だが過信しない。生きるために何が必要かを勉強し活かす。自分のマイナスを消しプラスに変える。	男性	30代
自分自身と家族の命は必ず守る。	男性	60代

語り継ぎたい震災の教訓	性別	年齢
備えが大切。連絡方法を決めておく。	女性	40代
心のケアが一番必要だと思っている。	男性	60代
トイレの問題、水、食料と同じぐらい重要。	男性	50代
とにかくすぐ逃げる。	女性	40代
各情報の集め方。	女性	60代
お年寄りの避難。落ち着く事、焦らないこと。水、明かり、暖、ガス、プロパン、バッテリー、ラジオ、電池、ガソリン、灯油。	女性	60代
私自身避難所でたくさんの避難されてきた人々の姿を見たり、接する機会があり、そういった方々へ何もできない自分にふがいなさを感じました。あのような大きな災害があった時、そういう方々の為に自分がどれだけできるのか、これからまだまだ学んでいかなければと感じました。	女性	30代
歩いて高台へ避難。	女性	30代
大きな地震が来た時は、津波が来るかもしれないと考えること。日頃から備蓄しておく。	女性	40代
安全な所へ逃げる。	女性	40代
はかり知れない自然の力と常に向き合って、命第一に日々過ごすこと。備えあれば憂いなし。	無回答	無回答
災害は突然やってきます。なかなか難しいことですが、日頃からその対策に心掛ける必要があります。やはり万が一に備えてライフラインの準備、但し公的な水道、電気は個人的にできませんので最小限の備蓄は必要と思います。	男性	70代
さっさと逃げる、頑張りすぎない、体を心を大切に、余裕を心掛ける。	女性	50代
まず、閉じ込められない様に戸を開ける。巨大津波に対して逃げ先を決めておく。	男性	60代
避難生活で役立った物、等。	女性	20代

## (2)日頃の備え

日頃の備え	性別	年齢
2F、3Fに非常ハシゴを外部の比較的安全な所に降ろせる準備が必要。	男性	80代以上
災害の大きさにより取り組みは変わってくる。3.11並の災害時はマニュアルは通用しない。要支援者を助ける事も出来ない。できる事は事後の安否確認の方法、その後当面の自活の方法を平時に考えておく事。	男性	50代
軍用リュックに数日分の食料、衣類、サバイバルツールを入れて、常に持ち出せる所に置いている。妻子用にも小リュックを用意。最低限ではあるが、2日程度の飢えをしのげる程度の食料、衣類、防寒グッズ諸々入れている。(赤十字の災害支援ツールを参考に、独自に改良を加えており、軽量・コンパクトにしている)。	男性	30代
1階が水没するので、備蓄は2階へ。	男性	50代
その時は場所をよくみて高い所に逃げる。	女性	50代
津波が来たら逃げる(身の安全の確保)。情報の確認。	男性	70代
すべて用意している(明日来ても大丈夫な位)。	女性	40代
できるだけ上層階に備蓄する。食料、防災グッズだけでなく、「クツ」を玄関(1階)ではなく、上層階にもおいておく。訓練の時だけではなく常日頃から「災害」を意識する。	男性	40代
非常時用として備えている物、道具や食品や日用品など出来るだけ高い所に置き、消費期限などいつもチェックしておく。水や火を使わなくても食べられる物を備える。	女性	60代
防災グッズ、避難時に使う身の回り品、食料、水等を用意しています。	女性	30代
避難リュックの常備。家族等の安否確認で現場へ戻らない。家具等の転倒防止対策。	女性	50代
避難場所、持ち出し物の確認をしている。	男性	70代
水・食料の備蓄、カセットコンロ等非常用調理器具の設置と、暖房用品の設置貴重品等なるべく2階に置く。	男性	50代
飲料水の確保、防寒の用意。	女性	60代
飲料水やガソリン、灯油の準備は心掛けている。持病に対する薬を切らさず用意しておくようにしている。物の収納について高い所に落下するような物を置かない。	女性	70代
人並だと思います、水、タオル、軍手等リュックサックにつめてベッドの下に置いてあります。	女性	70代
地震には落下物の防止。津波には高台への即応性。	男性	70代
食料、水、カセットコンロ、日用品、3日分の常備。	女性	60代
棚の固定。備品や食料を保管しておく。	男性	50代
とにかく避難する。	男性	60代
水、食量などは何日分か確保しておく。	女性	60代
大事な物は二階へ。	男性	60代
近所との声がけ。	女性	70代
近所との人づき合い。	女性	40代
2階に水を備蓄している。	男性	20代
貴重品や大切な物等は二階に置くようにしている。	女性	60代

日頃の備え	性別	年齢
神経質に生活をしない。	女性	50代
風呂の水を貯めていたり、トイレトーパーを多くストックしたりしております。又、缶詰や携帯コンロなどを用意しております。	女性	70代
多少の飲み物食物の備蓄、最小限の防災グッズの準備。	男性	70代
地震、津波を忘れない。	男性	60代
水の確保（飲料水、お風呂に貯水）。懐中電灯、ろうそく。食料品。	女性	60代
すぐに移動できるような姿で寝る。	男性	20代
浴槽に水を張っている。非常パック（2～3日分）を用意している。寝室や子供部屋など家具は背の低いものにしてている。倒れた時に出入り口をふさがないように家具の向き配置を工夫している。懐中電灯、ラジオなどは家族全員が一目でわかるようにリビングの所定の場所に置いてある。	女性	40代
非常食を常においておく（場所も家の人と共有しておく）。	女性	20代
一時避難（2～3日）命をつなぐのに必要な備蓄をしている。主に活動している場所で災害があった場合の避難場所とルートを確認してある。	男性	30代
高価なものは買わない。最低限な備蓄をする。いつでも心は備えている。	男性	30代
食料、水は最低一週間分。カセットコンロ、カセットボンベも同じ。ゴミ袋、トイレトーパー、灯油、反射式ストーブ、毛布衣類、紙皿、紙コップ、サランラップ、割箸、プラスチックのスプーン（洗い物が出来ない）、スコップ、軍手、長靴、以上を水のこない所に置いておくこと。	男性	60代
食料、飲料水、ラジオ、懐中電灯など定期的に入れ替え、準備。なるべく災害時に必要なもの（カセットコンロ、薬用品、上記含むなど）は高所に置く。	女性	50代
地震、津波の時どう行動するか。仲間と常に話し合う。	女性	40代
食料と水は、常に準備している。	男性	60代
水の備蓄。	女性	60代
車の逃げ場所を常にチェック。	男性	50代
風呂の水を捨てない。	女性	40代
避難場所の確認。	女性	60代
水、灯油、ラジオ、電池、プロパンガス、ガソリン。	女性	60代
備蓄の確保、自宅の耐震強化。	女性	30代
防災グッズを見える所へ置く。	女性	30代
家族バラバラの状況だったとしても、集合場所等の取り決めなど。	男性	40代
食糧、水、衣類、毛布、携帯ラジオ、懐中電灯など避難する時すぐ持ち運べる場所に置いてある、同じように車の中にも入れている。ガソリンとお風呂の水はいつもためてある。消火器はすぐ目につく所に置いている。	女性	40代
ガソリン半分になったら満タン。	女性	40代
避難袋を常に、目の届く所に置くこと。最小限の食糧を確保しておく。身元を示すものを、所持品の中に入れて置く。	無回答	無回答

日頃の備え	性別	年齢
我が家は3F造りの建物ですので全部倒壊するとは考えられませんでした。幸い一部寝起きする場所は何とかがありましたが、近所の人達と一緒に生活出来る避難所の確保が必要と思います。	男性	70代
家の中に倒れる物等、もう入れないようにしています。日持ちする食糧の備蓄、ガスボンベ等余計に置いておく。ガラス製品を飾らない。薬を余分に用意する。	女性	50代
頭上に、落下する物等を置かない。	男性	60代
市外へ出かける時はあらかじめ高台の位置を確認する。	女性	20代

### (3)安全安心な街づくりについて

安全安心な街づくりについて	性別	年齢
地震災害、津波被害に対する素早く避難する心構えを常にもつ。どこを歩いても対応する場所を考えながら行動する。	男性	80代以上
安全安心な街づくりは「もろはの剣」である。その為に日常に不都合はあってはならない。→耐震の為に部屋のまん中に柱を作る事はナンセンス。	男性	50代
商店街、町中であっても平素からのおつき合いが大切なことをつくづく感じました。	男性	70代
市で情報を流す。安否確認の情報を知る事が出来る様にする通信方法を考える（出来る様に）。	女性	50代
車での避難が、時間によっては心配。道路二車線でも難しいと思う。ご年配の方々には字を書く事、読む事は大変なんです。アンケートはとても良い事と思いますがもう少し簡単に記入出来る様にしてほしいです。一人身は楽かもしれませんが・・・。	女性	40代
3.11の津波の時、石巻市では、救命ゴムボートが一艘しか（ウワサでその様に聞きました）なかったの、2mぐらいの津波浸水で、水がひざあたりまで引くまで約14時間、ただ、ただなすすべなく呆然とながめている状態でした。緊急用救命ゴムボートは、絶対、絶対必要なものだと考えます。今後ゲリラ豪雨が、石巻地方に発生した時も必ず、使用する緊急救命用具です。	女性	70代
横のつながりを大事にし、身近からの情報交換が出来たらいざという時に役立つかなと思います。	女性	70代
普段から町ぐるみで「災害」を意識する事。「今日、災害がおきるかも知れない」という危機感を常に持っている事が重要。「モノ」の準備ではなく「ココロ」の準備をする。	男性	40代
近隣とのコミュニケーションや、防災訓練等へ積極的に参加できるような地域の取り組みも必要かと思います。	女性	30代
避難訓練・避難支援者への対策。	女性	50代
北上川下流堤防を早く整備して欲しいです。	男性	70代
避難経路等だれにでも分かる様な矢印も入れて案内表示町内に欲しい。	男性	60代
堤防の早期完成と水害対策をもっと早く実現するように市や県及び国に対して、強く要望していきべきである。	男性	50代
お忙しい中、折に折り組み大変の事と思います。組織の内容が、解らない方が多いように思われます。何よりも、災害時又、以後の統一された連絡場所連絡の方法を示して頂く事が、何よりも安心であり、当時を振りかえっても必要の事と感じます。	女性	60代
街の中心を再構築する中で避難路の確保を今から出来るという視点で考えて欲しい。所々に高い建物ができるのであれば山手の方へ行かずに避難できるような指定建物として欲しい。	女性	70代
まだ、道路等未完成の所が多く不安です、段差のない歩きやすい町並にしてほしいです。	女性	70代
強くて高い建物の設置（マンションなど）。	男性	70代
安全対策を組み入れた共同ビルを建てるには1軒1軒の覚悟が大切かと思います。自分の主張だけを通すだけでは上手くいく訳がないとお互いに肝に命じて取り組むべきかと思えます。多少自分の区域分の土地が少なくなってもガマンすべきものと思えます。	女性	70代

安全安心な街づくりについて	性別	年齢
一人一人の避難場所を確保する。	男性	60代
情報の平等性の共有。	女性	60代
地域コミュニティの充実（コミュニケーションをとり、互助の考えを常に持つ）。	男性	60代
津波対策として、大規模な場所を考えている様だが、景観を損なう。堤防を造るべきでは無い。堤防を造ったからと言って、自然災害に勝てる訳が無い。とにかく、高台へすぐ避難すべき様対策を立てるべきだ。	男性	60代
情報の伝達の必要性からも普段から近隣や町内単位でコミュニケーションを密にしておくことが大事だと思います。	女性	60代
常に街の人達とのコミュニケーションを取る、来街者は街全体で助け合うよう常に話し合うとか。	女性	70代
大都会の様に隣に住む人の顔も知らない、名前も知らないではいざという時に協力関係は築きたいのでコミュニティの大切さが復興住宅の建設が進むにつれて大切になって来る。公共機関だけでなく縁の下の力持ちと言うか住人各人がコミュニティの大切さを心に持って生きてほしい。時間との戦いでもある。職、住が安定しなければ人は戻って来ない、他地域に住宅を建てたり、職を見つけた人は多い。時間がない。	男性	70代
地域の皆様の連携も大切ですが、一人一人の自覚だと思います。	女性	70代
住民のコミュニケーションの強化、防災意識の継続。	男性	70代
遠くの避難より近くの逃げるところ。	男性	60代
自分のことは自分です。	男性	60代
やらない人はやらないので一部の人だけでも準備をしておけば良いと思う。その中で、やらない人たちをどうしていくか（被災時に）ということを考える。地域の人が主導してやるべきものなので少しずつでも前に進めれば良いと思います。	男性	20代
年に2回位、町内会、子供会など合同でお祭りやイベントをして、地域の人たちの顔を少しでも知ることによりいざというときに互いに協力し合えるように日頃からつながり作りしていくことが大切だと思います。	女性	40代
常に身近なコミュニティを頼れるようにし、いざとなったら助け合うことができるようにすることだと思います。	女性	20代
専門家を招いての研究、勉強会の実施。住民を巻き込む取組。児童への学習機会の提供。	男性	30代
みんなで意見を出し合い協力し合うことが一番と考える、反対者がいるとなかなか前に進めない。	男性	60代
道路をきれいにする。	女性	40代
防犯カメラ、石巻以外の方が夜治安が悪く困っている。	女性	60代
ペDESTリアンデッキ＝避難場所があったらいい。	女性	40代
町内の皆さんと常にコミュニケーションをとり、声を掛け合う様にする。出来れば定期的に話し合いの場があると良い。	女性	無回答

安全安心な街づくりについて	性別	年齢
町内に住む人々の団結が必要と思います。この町の住人はこれから街づくりをしようとしても個々バラバラの意見を言う人が多く、共同で目的に向かって対応しようとする行動力に欠けています。災害時個々の力では以前の町の姿に戻そうとしても不可能です。皆で力を合わせ少しは不自由なことがあっても街全体が良くなれば結局自分達も良くなると考えるべきである。	男性	70代
普段から体の不自由な人のいる家を覚えていて、いざという時一緒に逃げよう。	女性	50代
お年寄りがいる家を気に留めておく。	男性	60代

## 1. 使用した調査票

## 安全安心の街づくりに向けたアンケート

## 【ご協力のお願い】

厳寒の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会（事務局：街づくりまんぼう）では、安全・安心の街づくりを進めるにあたり、地域の皆さまの災害への備えや避難に関するお考えをお聞きするアンケートを、昨年に引き続いて実施させていただきます。

皆さまからお答えいただいた内容をもとに、石巻市とも協議を重ねながら、より実情に即した防災・減災の取り組みを進めていきたいと考えておりますので、皆さまの率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ大変恐縮ではございますが、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力を頂けますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

平成 27 年 1 月

コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会

《記入上のご注意》

- ◆ アンケートは3セット同封しております。ご家族の各個人でご記入いただき、返信封筒にてお送りください。
- ◆ お答えは、あてはまる番号を○で囲んでください。「その他」に当てはまる場合には、（ ）内になるべく具体的に、その内容をご記入ください。
- ◆ お答えは、設問ごとに（○は1つ）（○はいくつでも）などと指定されていますので、ご注意ください。
- ◆ 設問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、注意書きをよくお読みください。

ご記入が済みましたアンケートは、お手数ですが同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、

**2月10日(火)まで**にご返送ください。

《本アンケートに関するお問い合わせ先》

コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会／(株)街づくりまんぼう

石巻市中央2丁目8-2 石巻まちカフェ 担当：大塚友子

TEL：0225-25-5169 FAX：0225-25-5179

## 安全安心の街づくりに向けたアンケート

コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会  
(株)街づくりまんぼう

**■あなたご自身のことについてお伺いします。統計処理上、必要な項目ですのでお答えください。**

問 1. あなたの性別をお選びください。(Qは1つ)

- |       |
|-------|
| 1. 男性 |
| 2. 女性 |

問 2. あなたの年齢をお選びください。(Qは1つ)

- |        |          |
|--------|----------|
| 1. 10代 | 5. 50代   |
| 2. 20代 | 6. 60代   |
| 3. 30代 | 7. 70代   |
| 4. 40代 | 8. 80歳以上 |

問 3. あなたと一緒に住んでいるご家族・同居人の構成をお選びください。(Qは1つ)

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1. ひとり暮らし | 4. 親子孫三世帯 |
| 2. 夫婦のみ   | 5. 兄弟姉妹   |
| 3. 親子二世帯  | 6. その他( ) |

問 4. あなたの職業をお選びください。(Qは1つ)

- |             |                |
|-------------|----------------|
| 1. 自営業      | 4. パート・アルバイト   |
| 2. 会社員      | 5. 無職(家事従事者含む) |
| 3. 学生・専門学校生 | 6. その他( )      |

問 5. 現在、あなたが通勤・通学されている場合、その場所をお選びください。(Qは1つ)

- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1. 中心市街地(駅前エリア・立町中央エリア・山手エリア・住吉エリア) |
| 2. その他市内                            |
| 3. 市外                               |
| 4. 通勤・通学はしていない                      |



問 8. 家族や職場、もしくは身近な人と、防災について話すことがありますか。(○は1つ)

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1. 頻繁に話す →問 9 へ        | 4. ほとんど話したことはない |
| 2. ときどき話す →問 9 へ       | 5. その他 ( )      |
| 3. 一定のルールを決めた以降、話していない | 6. 全く話さない       |

【問 8 で「1」～「2」と回答した方のみ】

問 9. 防災について、最もよく話題にすることは何ですか。

--

問 10. 災害への備えとして、今、必要だと思うことは何ですか。(○はいくつでも)

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 1. 防災訓練              | 5. 東日本大震災のふり返りやその伝承 |
| 2. 講演会・勉強会 →問 11 へ   | 6. その他 ( )          |
| 3. 地域の津波避難に関するルールづくり | 7. 今、必要だと思う備えはない    |
| 4. 要支援者の避難の仕組み作り     |                     |

【問 10 で「2. 講演会・勉強会」と回答した方のみ】

問 11. 具体的に知りたい内容を選択してください。(○は1つ)

- |               |              |
|---------------|--------------|
| 1. 地震津波のメカニズム | 4. 救援活動のノウハウ |
| 2. ハザードマップづくり | 5. その他 ( )   |
| 3. 地域防災の事例紹介  | 6. わからない     |

問 12. あなたは、大きな地震が起きた直後に、どのような行動を心がけたいと考えていますか。

3つ、お書きください。

①	
②	
③	

問 13. あなたは、この地域(石巻中央周辺)で再び避難が必要な地震・津波が起きる危険性をどのように考えていますか。(○は1つ)

- |                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| 1. 明日起きてても不思議はない      | 4. 20～30年程度の間には起きるかもしれない |
| 2. 数年以内に起きるかもしれない     | 5. 数十年といった期間で起きる心配は少ない   |
| 3. 10年程度の間には起きるかもしれない | 6. わからない                 |



問 18. この地域で津波に対する避難を考える上で、あなたが特に重視すべきと考えるものを、以下の  
 選択肢から選び、(1)～(3)に1つずつお答えください。  
 ※その他を選択した場合は、回答欄に具体的な意見をご記入ください。

< 記入例 >

	回答欄
(1) 最も重要（優先したい）と考えるもの	5
(2) 二番目に重要（優先したい）と考えるもの	3
(3) 三番目に重要（優先したい）と考えるもの	10

	回答欄
(1) 最も重要（優先したい）と考えるもの	
(2) 二番目に重要（優先したい）と考えるもの	
(3) 三番目に重要（優先したい）と考えるもの	

< 選択肢 >

1. 津波避難における原則・前提を地域で決める
2. 地域における具体的な避難方法を地域で検討する
3. 地域の津波避難場所・経路を選定する
4. 地域における情報収集の方法を検討する
5. 津波避難標識の計画・設置を行う
6. 地域における避難行動要支援者の対策を立てる
7. 地域における車避難に関する原則や方法を地域で決める
8. 来街者の支援を検討する
9. 地域で安否確認の方法を検討する
10. 地域で備蓄を計画し、実施する
11. 本計画の位置づけを改めて策定する
12. 効果的な訓練のあり方を見なおし、実施する
13. 自主防災組織をつくること
14. その他
15. 特になし



**■今後の防災対策についてお聞かせください。**

問 19. 災害発生時、あなたはどのような状況になったら避難しますか？あてはまるものをお選びください。  
(〇はいくつでも)

- |                              |   |
|------------------------------|---|
| 1. 大きな揺れを感じたらすぐ              |   |
| 2. 自宅の建物に危険がある時              |   |
| 3. 大きな余震や津波の危険性があると判断した時     |   |
| 4. 防災無線やエリアメールなどで避難勧告や指示がでた時 |   |
| 5. 消防や広報車による呼びかけがあった時        |   |
| 6. 近隣の方の呼びかけがあった時            |   |
| 7. テレビやラジオで地域の危険性を伝える情報が流れた時 |   |
| 8. その他( )                    | ) |
| 9. どう判断してよいかわからない            |   |
| 10. 避難しない(理由: )              | ) |

問 20. 年に一度行われる市の総合防災訓練の機会に、地域で取り組むとよいと思われる事柄をお選びください。(〇はいくつでも)

- |                       |               |
|-----------------------|---------------|
| 1. 避難場所・経路・避難誘導サインの確認 | 6. 防災に関する勉強会  |
| 2. 町内会や近隣同士の連絡方法の確認   | 7. 要支援者の確認    |
| 3. 備蓄の見直し             | 8. 避難済みサインの導入 |
| 4. 避難所の設置、運営          | 9. その他( )     |
| 5. 炊き出し               | 10. 特にない      |

問 21. 新しく移り住んでくる人や次世代に向けて、街なか防災ハンドブック等を作るとしたら、いれておくべきと考える情報は何かですか。(〇はいくつでも)

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1. 避難所の場所、種類       | 6. 公的機関や医療機関等の連絡先一覧 |
| 2. 避難経路を示すマップ      | 7. 緊急連絡先リスト         |
| 3. 浸水想定域を示すハザードマップ | 8. その他( )           |
| 4. 地域の標高を示すマップ     | 9. 特にない             |
| 5. 備蓄や防災グッズの情報     |                     |

問 22. 地域に設置する避難誘導サインに必要なと思う情報は何かですか。(〇はいくつでも)

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1. 最寄りの避難所名     | 5. 避難を促すスローガンなど |
| 2. 避難所までの距離     | 6. その他( )       |
| 3. 避難所までの所要時間   | 7. 特にない         |
| 4. 東日本大震災の実績浸水深 |                 |

問 23. これからの防災・減災を考える上で、あなたや地域の困り事・悩み事がありますか。  
あてはまるものをお選びください。(〇はいくつでも)

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| 1. コミュニティの強化    | 6. 堤防施設の復旧   |
| 2. 災害時要援護者の避難対策 | 7. 防災行政無線の改善 |
| 3. 津波避難施設の充実    | 8. その他( )    |
| 4. 地盤沈下に伴う浸水の対策 | 9. 特にない      |
| 5. 車避難の対応       |              |

問 24. 避難方法だけでなく、東日本大震災からの教訓や反省として、自身で伝えるべきと感じていることを教えてください。

[ ]

問 25. 地震・津波に対する日ごろの備えや生活の工夫などを教えてください。

[ ]

問 26. 地域を安全で安心な街にしていくための取り組みを進めていく上で、ご意見等ございましたらお書きください。

[ ]

ご協力、ありがとうございました。

コンパクトシティいしのみき・街なか創生協議会では、「安全安心のまちづくり」を中心に、これからのまちづくりについて、気になること、心配なことなどを皆さまとお話ししたり、情報や意見を交換する場を増やしていければと考えております。堅苦しい会議という形式ではなく、美味しいお茶とお菓子を囲み、少し力を抜いて色々なお話ができる場も作って参ります。

ご興味のある方には、街なか創生協議会事務局より各種ご案内を申し上げますので、以下にご記入いただけますようお願いいたします。

お名前	
ご住所	〒
お電話番号	

※頂きました個人情報は、コンパクトシティいしのみき・街なか創生協議会にて適正に管理し、事業のご案内などに使用させていただきます以外に不正使用することはありません。